1995年度

フランス語学科シラバス

獨 協 大 学

目次の見方

① この冊子では、目次が1994年度以降入学者用（新カリキュラム）と、1993年度以前入学者用（旧カリキュラム）とに分かれています。

② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。

各科目の科目名について

① 掲載されている本文の科目名のところには、

(1) 1994年度以降入学者対象の科目には1994年度以降入学者用の科目名がそのまま掲載されています。（目次に掲載されている科目名のまま）

(2) 1993年度以前入学者対象の科目には1993年度以前入学者用の科目名の末尾に（旧）のマークがついています。（目次に掲載されている科目名の末尾に（旧）マークがついている）

(3) 1994年度以降入学者、および1993年度以前入学者の両方を対象としている科目では、(1)、(2)の科目名が両方記載されています。自分の入学年度を対象としていない科目名での、履修はできません。

人数制限についての注意

フランス語学科専門科目のフランス語部門――講読、作文、会話、時事フランス語、商業フランス語――については、科目の性質上、余り多人数の授業はできません。したがって、教室の収容人員を越えた履修者がいる場合、あらかじめ担当教員の承諾が必要です。承諾が無いまま履修登録をしても単位は認定されませんので、必ず第一週の授業に出席し、人数制限の有無を確かめ、制限のある場合は承諾を得てから登録するようにして下さい。

目　次

1994年度以降入学者対象（新カリキュラム）

学科専門科目

「フランス語学・文学」部門

フランス文学概論　1 ---------- 井村順一 -------- 1
〃　2 ---------- 山内宏之 -------- 3

「フランス文化・社会」部門

フランス文化・社会概論 ---------- 松山恒見 -------- 5
フランス事情 ---------- 藤田朋久 -------- 7
フランスの思想 ---------- 佐藤正之 -------- 9

目　　次

1993年度以前入学者対象（旧カリキュラム）

「フランス語」部門

フランス語講読	1	青木一郎	11
〃	2	伊藤幸次	13
〃	3	井上スズ	15
〃	4	井上たか子	16
〃	5	井村順一	17
〃	6	江花輝昭	18
〃	7	小石　悟	19
〃	8	佐藤正之	20
〃	9	鈴木　隆	21
〃	10	鈴木道彦	22
〃	11	根本祐徳	23
〃	12	藤田朋久	25
〃	13	松山恒見	26
〃	14	山田秀男	27
〃	15	山内宏之	29
〃	16	横地卓哉	30
〃	17	M. 水林	31
〃	18	Ph. Vanney	32
フランス語作文	1	朝倉　剛	33
〃	2	一戸とおる	35
〃	3	S. Giunta	37
〃	4	M. 水林	38
〃	5	Y. Perrot	39
〃	6	Ph. Vanney	40
フランス語会話	1	M. Carton	41
〃	2	H. Derieppe	42
〃	3	J. F. Doppia	43
〃	4	R. Floirac	44
〃	5	L. Fontaine	45
〃	6	S. Giunta	46

フランス語会話　7 …… Ch. Kessler …… 47
〃　8 …… B. P. Leurs …… 48
〃　9 …… M. 水林 …… 49
〃　10 …… Ch. Pelissero …… 50
〃　11 …… Y. Perrot …… 51
〃　12 …… R. 佐久間 …… 52
〃　13 …… Ph. Vanney …… 53
時事フランス語　1 …… 一戸とおる …… 55
〃　2 …… 伊藤幸次 …… 57
商業フランス語　1 …… 浅野信二郎 …… 59
〃　2、3 …… 松本正 …… 61

「フランス語学」部門

フランス語学概論　1 …… 木下光一 …… 63
〃　2 …… 山田秀男 …… 63
〃　3 …… 横地卓哉 …… 63
〃　4 …… 一戸とおる …… 63
フランス語史 …… 山田秀男 …… 65
フランス語学特殊講義 …… 木下光一 …… 67
フランス語学特殊講義B－1 …… （前期完結）小石悟 …… 69
〃　2 …… （後期完結）小石悟 …… 71

「フランス文学」部門

フランス文学概論　1 …… 井村順一 …… 1
〃　2 …… 山内宏之 …… 3
フランス文学各論　1 …… 井村順一 …… 73
〃　2 …… 根本祐徳 …… 75
フランス文学特殊講義　1 …… 川俣晃自 …… 77
〃　2 …… 若森榮樹 …… 79

「フランス文化」部門

フランスの地誌 …… 鈴木隆 …… 81
フランスの歴史 …… 藤田朋久 …… 83
フランスの哲学 …… 佐藤正之 …… 9
フランスの音楽 …… 松橋麻利 …… 85
フランスの演劇 …… 江花輝昭 …… 87
フランス事情 …… 藤田朋久 …… 7
フランスの政治 …… 井上スズ …… 89
フランスの経済 …… 千代浦昌道 …… 91

フランス文化特殊講義　1 …… 青木一郎 …… 93
〃　2 …… 鈴木隆 …… 95
〃　3 …… 横地卓哉 …… 96

「第二外国語」部門

英語Ⅲ－1 …… 大島かよ子 …… 97
〃　2 …… 児嶋一男 …… 98
英会話Ⅰ－1 …… P. Beland …… 99
〃　2 …… T. J. Fotos …… *
〃　3 …… K. Harris …… 100
〃　4 …… J. M. Thurlow …… 101
〃　5 …… L. Villeneuve …… 102
英会話Ⅱ …… D. R. Kogge …… 103

＊最初の授業で指示する。

科目名	フランス文学概論　1 フランス文学概論　1（旧）	担当者名	井村順一

講義の目標		近代フランス語形成期にあたる17世紀の文学作品を概観し、それらが言語文化史上どのような位置を占めるかを検討する。
講義概要		17世紀という時代の特徴をつかんだうえで、講義予定欄に名前をあげた作家たちの業績を説明する。随時フランス語のテキスト抜粋を用いるが、初学者にも理解できるように解説する。なお受講者の理解度に応じて講義予定の進度・内容を若干変更することもありうる。
使用教材	テキスト	適宜プリントを使用する。
	参考文献	講義の内容に応じそのつど指示する。
評価方法		各自の見解を問う論述式の筆記試験を行う。前後期末2回行うか後期末のみにするかは受講者の数を見てから決定する。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	＜時代の概観＞　近代フランス語の位置づけ。政治・文化史上の概観。詩人-文法家マレルブ。「アカデミー・フランセーズ」。言語と社会制度との関係。
2	
3	
4	
5	＜文芸サロンとその周辺＞　サロン成立の過程。サロンと文学との関係。「会話」の問題。「プレシオジテ」の問題。バロック小説。
6	
7	
8	
9	＜ルイ 13 世時代・摂政時代＞　デカルト、コルネイユ、パスカル。文構成の工夫。「ルイ 13 世風文体」。
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	＜劇文学の意味＞　コルネイユ（つづき）。モリエールと喜劇。
2	
3	
4	
5	＜古典期の作家たち（1)＞　ラ・フォンテーヌ、ラシーヌ、ボワロー、説教家たち。
6	
7	
8	＜古典期の作家たち（2)＞　セヴィニェ夫人、ラ・ファイエット夫人。「プレシオジテ」の去就。
9	
10	
11	＜結論―古典主義の意味＞
12	
備考	

科目名	フランス文学概論　2 フランス文学概論　2（旧）	担当者名	山内宏之

講義の目標		
講義概要	講義の進め方、テキスト、参考文献、評価方法などの詳細は、四月開講時に説明する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文化・社会概論	担当者名	松山恒見

講義の目標		これからフランス語、フランス文学、フランス文化についての学習を始める学生諸君のために、フランスという国についての基礎的な知識を与え、この国の文化・社会の特長を或程度まで把握して頂くこと。
講義概要		フランスの政治、経済、社会、文化など、対象とする領域は広いが、もちろん、それらの領域についての詳細に立入ることは、時間的制約の面から見ても不可能に近い。従って概説的になる場合と、特に初歩段階で必要不可欠と思われる点については比較的詳しく説明する場合との両面がある。一例としてフランスの歴史を考えると、この講義ではフランス革命以後に重点を置くとか、地理に関しては自然地理は簡単にすませ、人文地理に重点を置くというような精粗の度合の差が生ずる。文化の面では、フランス語の歴史とか、文学についての大まかな展望図を与えることなどには、かなり精力を費すことになると思う。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	• *Le nouveau Guide France*, Hachette • *Regard sur la civilisation française*, J. Schultz, Clé international
評価方法		前・後期とも、地図作成、年表作成などのレポートを提出してもらうが、これは参考にとどめ、中心は、前・後期の試験（特に後期の試験）の結果によって評価する。
受講者に対する要望など		

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	フランスの国旗、国歌、国籍、民族（国歌はフランス語歌詞を配布）
2	フランスの国語（フランス語史の概要）
3	フランス革命とそれに続く第５共和国までの歴史概観（簡単な年表作成を課題とする。）
4	第一世界大戦、第二次世界大戦のアウトライン。ベトナムおよびアルジェリア問題。
5	フランスの政治（憲法、大統領、内閣、国会）
6	フランスの行政、行政区劃と、地方行政。海外領土。（フランスの地図作成を課題とする。）
7	フランスをかこむ海と、フランスの国境を接する国々。フランスの自然地理。
8	フランスの農業、漁業、鉱工業、貿易。
9	フランスの社会問題、労働問題。警察、司法。
10	フランスの防衛問題、EC、ヨーロッパ共同体。
11	フランスと英米、フランスとドイツ、フランスと日本。
12	予備。順調な場合は、ワイン、チーズ、料理、香水、オートクチュールなどについての常識。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	フランス文化概論（外国人のフランスに対する評価と、フランス人自身の認識。）
2	フランス語と英語（相互の歴史的交流、文法の比較）
3	フランスの美術（建築、絵画、彫刻、タピストリー、陶器など）
4	フランス人の宗教（信仰、宗教行事、祝祭日など）。フランスの思想。
5	フランスの右翼（ジャンヌダルク、ナポレオン、ル・ペン）フランスの左翼（パリ・コンミュンヌ、人民戦線、レジスタンス）
6	フランスの科学（パスカル、デカルト、ラヴォアジェ、パストゥール、キュリー夫人など）
7	フランスの教育（学校制度と各種ディプローム）アカデミー・フランセーズ。
8	フランスの音楽、演劇。（シャンソンなど若干の作品紹介。）
9	フランスの文学（中世から十七世紀まで）
10	フランスの文学（十八、十九世紀）
11	フランスの文学（二十世紀）
12	予備。一年間の学習総括。必要に応じての補足。
備考	

科目名	フランス事情 フランス事情（旧）	担当者名	藤田朋久

講義の目標		フランスの社会や文化の特質を幅広く検討する。
講義概要		本講義は複数の担当者によって行われます。政治・経済から生活・文化にいたる様々な分野について、毎回具体的な問題を取り上げて検討します。
使用教材	テキスト	特定の教科書は用いませんが、適宜プリントなどを配布します。
	参考文献	・菅野昭正ほか編『読む事典フランス』三省堂、1990年刊 ・新倉俊一ほか編『事典現代のフランス（新版）』大修館書店、1985年刊 ・Gérard MERMET, *Franscopie 1993,* Larousse, 1992. ・その他の文献については、教室で指示します。
評価方法		レポートおよび出席回数。
受講者に対する要望など		講義スケジュールや評価方法について、第一回目に説明を行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

科目名	フランスの思想 フランスの哲学 （旧）	担当者名	佐藤正之

講義の目標		近代フランス文化の形成期ともいえる十六世紀から十八世紀のフランス哲学思想を概観し、現代フランス文化の精神的源流についての知識と理解を深める。すぐれた思想家たちが深求した問題は、彼らが生きた時代と社会に固有のものであると同時に、幾世代をも経た今日なお、あらためて問いなおされる問題群を構成し、受講生諸君の関心を惹くであろう。
講義概要		ルネサンスからフランス革命前まで、時代を追って概説講義する。とくに、十六世紀のモンテーニュ、十七世紀のデカルト、パスカル、十八世紀のヴォルテール、ルソーにスポットライトをあてて、これら代表的思想家の著作にも原典あるいは翻訳により直接触れながら、やや詳しく解説する。
使用教材	テキスト	特に定めず、随時プリントを配布する。
	参考文献	講義中に随時紹介する。
評価方法		前期および後期それぞれレポート提出による。課題は教室で提示する。
受講者に対する要望など		

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	講義の目標、年間プラン。参考文献の紹介。レポートについて。
2	十六世紀思潮概観――中世からルネサンスへ。
3	モンテーニューの時代：ユマニスムと宗教改革(1)
4	モンテーニュの時代：ユマニスムと宗教改革(2)
5	モンテーニュ（1）："Que sais-je?"
6	モンテーニュ（2）：人間性の探求
7	十七世紀思潮概観：科学革命、異教思想、自由思想
8	デカルト（1）：誰もが公平にもつ正しい判断力＝理性
9	デカルト（2）：真理探求の四つの規則
10	デカルト（3）：方法的懐疑 Cogito ergo sum「考える私」の存在
11	デカルト（4）：精神と物体
12	（未定）
備考	

後期

週	主要テーマ
1	パスカル（1）：幾何学的精神と繊細の精神
2	パスカル（2）：人間の偉大と悲惨
3	パスカル（3）：神の恵みと人間の自由意志
4	パスカル（4）：説得の術
5	十八世紀思潮概観：啓蒙思想家たちと百科全書
6	ヴォルテール（1）：『イギリス便り』
7	ヴォルテール（2）：寛容論　哲学辞典
8	ジャン・ジャック・ルソー（1）：人間の不平等
9	ジャン・ジャック・ルソー（2）：社会契約論――個人と社会
10	ジャン・ジャック・ルソー（3）：善悪――良心の問題
11	補説
12	Conclusion
備考	

科目名	フランス語講読 1（旧）	担当者名	青木一郎

講義の目標		第二次世界大戦後のフランスを代表する小説の一つであるカミュの『異邦人』をテキストとして、読解力の向上と共に、戦後の小説、そしてカミュという作家についての理解を深めることを目的としたい。
講義概要		講読の授業であるから、勿論読解力の向上を目指して、学生諸君にテキストを訳してもらうことが中心となるが、カミュという作家、そして戦後の小説というものを理解してもらうために、最初の一二回は、戦後のフランス文学、そしてカミュについての解説をする。その後も随時、カミュの文体、小説の構造などについて解説を加えてゆく。そして、出来れば最終回に綜合的なまとめを行いたい。
使用教材	テキスト	・アルベール・カミュ『異邦人』第三書房
	参考文献	・モーリス・ナドー『現代フランス小説史』みすず書房 ・高畠正明『若き日のカミュ』サンリオ選書 ・J.-P. サルトル『シチュアシオンⅠ』人文書院
評価方法		評価は、前期後期とも定期試験期間に行うテストによって決定する。
受講者に対する要望など		

前期

年間講義予定

主要テーマ
最初の一二回は第二次世界大戦後のフランスの政治状況、文学的情勢などについて説明し、カミュという作家についての解説を行う。その後、学生諸君にテキストの読解をしてもらいます。比較的長いテキストですから一回の授業で3ページ程度は進みたいと思います。すぐれた翻訳がありますから、それを参考にすることは勿論結構ですが、読解力の向上のためには、こまめに辞書を引くこと、文法書をよく参照することが必要です。

後期

主要テーマ
前期の授業の進行状況や、前期テストの結果などを考え合わせて、授業の進め方、解説の仕方などを考えたいと思います。最終回には作品全体についての綜合的なまとめを行うつもりです。

科目名	フランス語講読 2 (旧)	担当者名	伊藤幸次

講義の目標		職業俳優による見事な朗読を聞きながら、バルザックの名作を読みます。文学鑑賞だけでなく、音読のための発声訓練や、資料映像を視ながら社会文化的知識を吸収したいと思います。
講義概要		『ウージェニー・グランデ』は『人間喜劇』の中で孤立した作品と言われます。確かに再登場人物はおりませんが、グランデ氏の金銭欲やウージェニーの純愛は、情念の人格化と言うべく、最もバルザック的なものです。みずみずしい感性の中で、作者の複雑な家族関係の屈折した反映も読みとれます。舞台となったアンジュー地方のみならず、その背後に見え隠れするトゥレーヌ地方を紹介する映像を視ながら、風土と人間の関係を考えます。講義予定には、大竹仁子氏の適切な解題を転載します。
使用教材	テキスト	*Eugénie Grandet*, Le Livre de poche
	参考文献	・霧生和夫『バルザック　天才と俗物の間』中央公論社。これは絶版なので希望者には担当者の手持在庫を頒布します。
評価方法		授業への参加度を、毎回行うアンケートと口頭発表によって測定する。他に Examens Surprises を行うことがある。
受講者に対する要望など		三年生優先。28 名限定。一回目の授業で受講者を決定するので必ず出席すること。

年 間 講 義 予 定

主 要 テ ー マ

●「ウージェニー・グランデ」(1883)

1833年9月19日、「ヨーロッパ文芸」誌に第1章のみ掲載。完成作は1833年12月、シャルル＝ベシェ刊行の『19世紀風俗研究』に収められて発表。『人間喜劇』の『地方生活情景』に所収。

ソーミュールの元酒樽屋の親父グランデは、妻の持参金を巧に運用し、今ではぶどう栽培を営み、秘かに巨万の富を蓄えている。クリュシュ家とデ・グラッサン家は、この資産を狙って、グランデの一人娘ウージェニーの持参金争奪の火花を散らす。ところが1819年、パリ育ちの伊達男、従兄のシャルルの訪問で、この田舎娘は恋に目覚める。父親の破産と自殺を知って悲嘆にくれるシャルルにいっそう恋心を募らせ、貪欲な父の目を盗んでは世話を焼き、ついには吝嗇な父を裏切って、東インド諸島へ旅立つ従兄に金貨を渡す。父娘の争いを苦にして母は死に、父もまた金貨に心を残しながら死ぬ。一方シャルルは一財産作ると、さらに地位を得るために、ウージェニーを捨てて、醜い貧乏貴族の娘と婚約。ひたすら待ち焦がれていたウージェニーは従兄の裏切りを知るが、残っていた叔父の負債を黙って払ってやり、彼を諦める。辛抱強く待ったクリュシュと合意の上で形だけの結婚をする。33歳で未亡人となると、慈善事業を生きがいに、また元の単調な毎日を送る。

モリエールのアルパゴンとよく対比されるが、グランデは、ただ金をしまい込むだけの守銭奴ではなく、金を動かし、抜け目なく利殖を図る、言わば、用意周到な近代的事業家である。徹底した節約を家族に強いるが、娘への愛情、女中へのいたわりなど、金以外では極めて公平で人間的な優しさも持つ。一方、父親の強烈な個性との対比で、ウージェニーは従順で清純な娘だと見られがちだが、それは彼女が金に対する執着を示さないからだろう。初恋は彼女の野性的な情熱に火をつけ、彼女を無知から救い、果敢にする。その強情ぶりは、「やつは俺よりよっぽどグランデときてやがる」と父親すら慨嘆させる。金に対する父の貪欲さは、恋の貪欲さとなって娘に受け継がれているのである。アランは、偉大な男勝りの「聖女」と評するが、他の感情を閉じ一途に初恋に殉じて生きる健気な姿に、内面の葛藤を制する意志の強さを見るからであろう。

ドラクロワ、ジッド、バルデーシュはこの作品に批判的であり、妹ロールやカロー夫人もグランデのあまりに多額な蓄財を非現実的だと非難するが、発売当日から好評を博した。後には作者自身もその好評ぶりを嘆くほどで、サント・ブーバが「不朽の生命を持つだろう」と予想した通り、バルザックの作品中最も読まれている作品の一つである。

科目名	フランス語講読 3（旧）	担当者名	井上スズ

講義の目標		フランス語の文を正確に訳すよう努めるとともに、内容を十分把握すること。更にその内容がフランス外交上の又は国際政治上のどのような問題に対応しているのかを理解させる。
講義概要		フランス外交の特色をもっとも簡潔にかつなるべく平易に叙述したテキストを選び講読する。
使用教材	テキスト	未定（プリント使用）
	参考文献	
評価方法		授業中受講者の担当した部分についての訳をはじめとする理解度、その他積極性等を評価の基礎とする。更に前期・後期の試験の成績も加えて綜合的に評価を出す。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語講読　4（旧）	担当者名	井　上　たか子

講義の目標		フランスのラジオ・テレビのニュースを中心に、生のフランス語を理解できる力を伸ばしていきたいと思います。 特に耳から理解出来るように、聴き取りに重点をおきます。最初は難しいと思いますが、フランス人の生活や文化的背景、さらに語彙の学習を通して、徐々に力がつくように指導します。
講義概要		毎回、聴き取りのヒントとなるような練習問題を配布します。概要を把握出来た段階で、テキスト（プリント）を読み、細かい点（文法・語彙の用法など）を説明します。
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	
評価方法		平常の授業への参加度（出席数だけではない）を重視します。
受講者に対する要望など		根気よく何度も録音を聞いて努力して下さい。出発点の能力よりも一年後に少しでも高いところにいるように。それには努力しかありません。

科目名	フランス語講読 5 (旧)	担当者名	井村順一

講義の目標		ロマン派の作家アルフレッド・ド・ミュッセの劇作品を選んで講読する。
講義概要		演習形式で授業を進め、作品の構成を検討し、同時にフランス語の読解力を養う。
使用教材	テキスト	開講時に指示する。プリントを用いる予定。
	参考文献	
評価方法		訳読を主体とする筆記試験を行う（前後期2回にするか後期のみにするかは受講者の数を見て決める)。これに授業への参加度を加味して評価する。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語講読 6（旧）	担当者名	江花輝昭

講義の目標		市販の各種ヴィデオ・カセット教材等を用いて、耳と目による総合的なフランス語聴解能力の向上を目指します。教材の内容は主としてドキュメンタリー、インタビュー形式のものです。
講義概要		はじめは比較的易しいレヴェルのものから扱い、次第にレヴェルの高いものへと移行します。後期にはテレビ・ラジオのニュース等も扱う予定です。一つの教材を2～3回かけて終了し、最後に必ず小テストを行います。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法		小テストによる平常点に加えて、前後期2回の定期試験も行い、総合的に評価します。
受講者に対する要望など		平常点が重視されますので、小テストをきちんと受けないと単位が取れません。第一回目の授業時にテストを行い、受講者を制限するかもしれませんので、必ず出席して下さい。

科目名	フランス語講読 7（旧）	担当者名	小石　悟

講義の目標		Compréhension orale（聴解）の能力を高める
講義概要		書かれたテクストはかなり難しいものが読めるのに、音になるとごく簡単なものでさえも理解出来ない人がときどきいます。この授業では自分の弱点がどこにあるかを見つけることを手助けし、学生自身がフランス語学習の自律性を身につけることを目指します。単音の区別、語彙力の増加、compréhension globale（全体的な理解）、compréhension analytique（分析的な理解）、スピードに慣れる練習など様々な方法を使いながら、普通のスピードのフランス語を理解出来るようにしたいと思います。各週の授業内容は受講者のレベル、要望、進度等を考慮の上決定します。
使用教材	テキスト	補助教材として適宜カセットを指示します。
	参考文献	
評価方法		実際の訓練を行うので出席重視。評価はテストによる。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語講読 8（旧）	担当者名	佐藤正之

講義の目標		フランス語で書かれた散文テキストの読解力をつけること。
講義概要		平易な文章を多読する。語法・文法上の問題点をチェックしながら要旨あるいは筋をとって読み進め、時に要所を和訳する。
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	
評価方法		授業参加度、小テスト、レポート、等による平常点と定期試験（筆記）による。
受講者に対する要望など		テキスト、授業の進め方など第1回の授業の際に述べる、受講者数30名を超える場合は、第1回出席者を優先し、抽選によってきめることがある。

科目名	フランス語講読 9 (旧)	担当者名	鈴木　隆

講義の目標		フランス語で書かれた、都市の生活および文化等に関する専門書を読み、専門的知識の修得ならびにフランス語の修得を目指す。
講義概要		都市の生活および文化等に関する専門書を調べておいて、授業中に発表する。
使用教材	テキスト	講義中に配布する。
	参考文献	なし
評価方法		試験および授業中の発表によって評価する。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語講読　10（旧）	担当者名	鈴木道彦

講義の目標		第2次大戦中にドイツの収容所で書かれた1篇の戯曲を読み、演劇と状況について考えるのが狙いである。作品はサルトルの『バリオナ』。キリスト誕生を題材にしながら、実はドイツ軍当局の目を盗んでドイツへの抵抗を暗示し、かつ自由にかんする作者の考え方をも盛りこんだもの。学生による発表を重視し、発表者には十分な時間をかけて調べてもらう。発表についての討論と、そのまとめ、といった形で進行させる予定である。
講義概要		初めに作品の書かれた当時の状況と、この作品がサルトルの全生涯の中でどのような意味を持つものであるかということについて、講義形式で説明を行なう。あとはテキストに従って読み進めるが、全体は相当に長い作品なので、話の筋がわかる程度に抜粋し、重要部分のみを選んで検討する。テキストは、コピーを配布する。 参加学生は、この作品をきっかけにして、第2次大戦中に書かれた抵抗文学や、サルトルの他の作品、ないしはサルトルの周辺の作家による作品をも併せて読むことが望ましい。それらについては、授業中に指示する。
使用教材	テキスト	Jean-Paul Sartre : *Bariona*
	参考文献	ボーヴォワールの回想録、とくに『女ざかり』（紀伊国屋書店）は、この時期の作者のことを知る上で、よい手がかりである。そのほか、サルトル『シチュアシオン　X』（人文書院）、ジャンソン『サルトル』（人文書院）、鈴木道彦『サルトルの文学』（紀伊国屋書店）など。
評価方法		前・後期各1回の筆記試験による。試験は、テクストの一節を翻訳解説する問題と、あらかじめ講義中に設問を知らせておき、解答を準備させた上で、それを教室で書かせるものとを、併用する。持込みは、本もノート類も、いっさい許さない形で行なう。
受講者に対する要望など		参加者は辞書をよく引いてほしい。なお、大学院の講義との関係で、本講義が今年度休講になる可能性もあるので、掲示に注意すること。休講の場合は4月新学期までに掲示しておく。

科目名	フランス語講読 11 (旧)	担当者名	根本祐徳

講義の目標		Antoine de Saint-Exupéry の「人間の土地」Terre des hommes を読んでいきます。この本の最後に Mozart assasiné「虐殺されたモーツアルト」という言葉がでてきますが、それがどんな意味なのか理解できるようになればいいと思います。この講義の到達目標は、受講者自身が本屋で Terre des hommes を手に入れることから始まります。
講義概要		毎回4・5人の人に訳してもらい説明を加えながら進めていきます。訳してもらう人には前もってあててておきます。 8章からなるこの作品をできるだけ詳しく読んでいきますが、作品全体に目を通したいと思うので、部分的に省略する個所もでてくると思います。
使用教材	テキスト	Saint-Exupéry, TERRE DES HOMMES, Folio
	参考文献	
評価方法		評価は前期レポート、後期テストと、更には授業への参加度によって決定する。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	前期は職業（métier）について書かれた部分を読みます。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	後期は人間についての考察を読みます。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス語講読 12 (旧)	担当者名	藤田朋久

講義の目標		＊「聖人・聖遺物崇拝」を通して、フランス中世社会に対する理解を深める。 ＊史料分析の実例に触れる。
講義概要		今日では多くの場合、聖遺物は教会の宝物殿などの片隅にひっそりと置かれた奇妙なオブジェにしか過ぎません。けれども中世においては、聖遺物は宗教生活の中核に位置し、いわば共同体の感情的エネルギーの結晶とでも呼べるものでした。聖遺物はまた宗教の枠をはるかに越えて、これなしには社会が成り立たないと言えるほど重要なものでした。今年は「聖人・聖遺物崇拝」をめぐる数多くの問題の中から二、三のテーマを選び（châtiment divin, humiliation des reliques, odeur de sainteté, etc.)、関連する論文を読みます。
使用教材	テキスト	プリント配布。
	参考文献	・渡辺昌美『フランスの聖者たち』大阪書籍　／　同『中世の奇蹟と幻想』岩波新書、他（テキストおよび参考文献の詳細は、教室で説明する)。
評価方法		前期・後期二回のレポート、出席回数など。
受講者に対する要望など		第一回目の授業に必ず出席すること。無断で登録しても認めない場合があり得る。

科目名	フランス語講読　13　(旧)	担当者名	松　山　恒　見

講義の目標		フランス語講読という講義は、かなり多数あるが、大別すると文学、語学、文化などになる。その中で、この講義は文学を中心とするが、もちろん語学的側面も含まれる。文学作品の味読には、まず文法的解析が行われた上で、文学的解析にはいる。後者の面では、本年選んだテクストは、ギリシャ悲劇のテーマにもとずいて、現代風に創作したものだから、下の参考文献を見て気付くように、基礎知識としてのギリシャ神話、伝説などについても理解させるようにしたい。
講義概要		テクストに基づいて、読み始めるに先立って、二つの予備的講義を行う。一つは、上述のようにギリシャ文化と、それがなぜ現代フランスの演劇に取り上げられるのかの事情。第二には作者ジャン・コクトオの作品全般について。 毎年の経験から見て、一年間に完読することはむずかしいので、途中で、ストーリーの説明だけした上で、テクストは省略する部分が出ることは予め知っておいて頂きたい。(採用したテクストには、梗概も記載してある。)
使用教材	テキスト	• Jean Cocteau ; *La machine infernale*, Nouvelles Classiques Larousse
	参考文献	•『ギリシャ悲劇全集』4巻、人文書院 特に第2巻ソフォクレスのオィディプス王 • 呉茂一著『ギリシャ悲劇』現代教養文庫 André Gide : Théâtre の中の Oedipe (邦訳はあるはずだが、手もとになくて申し訳ない。図書館で各自調べて下さい。) その他、フランス語で挑戦する人は、ヴォルテールにも同じオィディプスのテーマの作品がある。(これも図書館で)
評価方法		前・後期の試験の結果による。むろん、平常点として、指名された時の成績も考慮するが、この方は、情況によっては極度に少い程度にしか参考にできない可能性もある。さらに、四年生の就職状況によっては、前期試験を取止め、後期試験のみとなることも考えられる。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語講読 14 (旧)	担当者名	山田秀男

講義の目標		この講読の授業で目標とするところは、ただ一つである。それは、「辞書を引けば、どんなフランス語の文でも読める」ような力をつけることである。
講義概要		上記の目標を達成することは容易ではない。これに一歩でも近づくために、着実な努力をしていく。最初は、勉強の仕方、問題点の調べ方、どのような文献や辞書があり、それらをどのように利用すればよいか、といったことを中心に、質疑応答なども交えて、疑問点を残さないようにして進めていき、次第に本格的な読解へと入っていく。
使用教材	テキスト	• M.-N. GARY-PRIEUR ; *De la grammaire à la linguistique*, 2e éd., 1985, Paris, Armand Colin.
	参考文献	必要に応じて、指示し、紹介する。
評価方法		年に何回か担当してもらい、それを中心にした平常点と出席状況とを加味して評価する。
受講者に対する要望など		フランス語の読解力をつけたい者を歓迎する。

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1 〜 12	このテキストは、第一部と第二部に分かれている。二年間で全体を読み終える予定なので、一年目は、第一部を読むことになる。さらに、この第一部は、四つの章からなっているので、前期は、第一章と第二章を読む。 なお、一回の授業でどれだけ進むかを、あらかじめ決めておくようなことはせずに、十分な時間をかけて、丁寧に読んでいくようにしたい。 ちなみに、第一章のタイトルは、「勉強の道具：文法書と辞書」であり、第二章のタイトルは、「文の定義」である。
備考	

後期

週	主要テーマ
1 〜 12	後期は、第一部の後半、すなわち第三章と第四章とを読む。 第三章のタイトルは、「文と発話」であり、第四章のタイトルは、「容認可能な文とその他の文」である。
備考	

科目名	フランス語講読　15　(旧)	担当者名	山内宏之

講義の目標		
講義概要	講義の進め方、テキスト、参考文献、評価方法などの詳細は、四月開講時に説明する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語講読　16（旧）	担当者名	横地卓哉

講義の目標		――*Le Monde* を読む 文法的なことがら（特に動詞の法・時制、代名詞など）に留意しながら、新聞を正確に読めるようにする。
講義概要		前期は、環境問題に関連した記事を集めた教科書版のテキストを、1回1セクション（本文3ページ）の割合で読みすすめる。 後期は最新の時事問題をあつかった記事をコピーで読む。
使用教材	テキスト	『環境を生きる　――ル・モンドの論調を読む――』 （*Vivre l'environnement*）、渡瀬嘉朗編、白水社
	参考文献	
評価方法		前・後期の定期試験、授業への参加度等により決定する。なお、毎回ノート（またはそれにかわるもの）のコピーの提出を求める。
受講者に対する要望など		

科　目　名	フランス語講読　17　(旧)	担当者名	M. 水林

講義の目標		Découvrir le plaisir de la lecture en français.
講義概要		Nous ne quittons pas le monde de Michel Tournier. La lecture d'un de ses contes, *Pierrot ou les secrets de la nuit,* sera pour nous l'occasion de pénétrer dans un univers plein de rêves et de poésie. La simplicité et la clarté du style, qui n'empêchent pas chez Tournier la précision et la richesse descriptives, donneront aux étudiants l'occasion d'aborder la lecture directement en français sans passer par la traduction.
使用教材	テキスト	Photocopies.
	参考文献	• Un dictionnaire français. Par exemple, le *Dictionnaire du français langue étrangère niveau II,* ou bien le *Dictionnaire français contemporain.* Ces deux dictionnaires, publiés chez Larousse, sont diffusés au Japon en format de poche aux éditions Surugadaï-shuppansha.
評価方法		Deux rapports à remettre dans l'année.
受講者に対する要望など		

科　目　名	フランス語講読　18　(旧)	担当者名	Ph. Vanney

講義の目標		Améliorer la compréhension des textes à contenu politique, sociologique ou économique.
講義概要		Au début de l'année, après consultation avec les étudiants, choix d'au moins deux thèmes de réflexion (un par semestre), si possible - mais ce n'est pas obligatoire - en rapport avec les relations internationales. Méthode : - Cours en français. Pas de traduction. - Approche globale dans un premier temps : comprendre le sens général, le développement logique des idées. Répondre à des questions données au préalable. - Etude détaillée ensuite sur le plan lexical et grammatical. - Les étudiants doivent tenir un carnet de vocabulaire des mots qu'ils ne connaissent pas.
使用教材	テキスト	Polycopiés
	参考文献	• *Le Monde. Le Monde Diplomatique.* • *Actuelles* d'Albert Camus. • Les journaux japonais.
評価方法		Examen à la fin de chaque semestre : explication de mots, de structures grammaticales et une petite composition.
受講者に対する要望など		Tous les étudiants doivent préparer à l'avance le cours.

科目名	フランス語作文 1 (旧)	担当者名	朝倉　剛

講義の目標		2年間の学習によって、フランス語への習熟度は或る程度のレベルに達しているという前提にたち、日常的、実用的な、あるいは文学的な仏作文の手引きとその実習を目標とする。仏作文学習の積極面は、およそ次の3点に集約されるであろう。 (1) 将来実社会に出て、作文能力を活かすことができる。 (2) フランス語の原典の「読み」もいっそう深めることができる。つまり「解読作業」と「作成作業」とをつなごうという意識がもてる。 (3) 日仏文化の接触と交流とを促進することに貢献できる。
講義概要		1年間の授業計画は次の2つに大別できよう。 (1) 前期では、テキストを用い、日常的・実用的作文を実習する。それと平行して、初歩の課程では学ばない「文法の難所」(difficultés grammaticales) に目を向けさせる。 (2) 後期にはいっても実用文の学習は続くが、後半の7回ぐらいは、日本文学の仏語訳を読み、2つの言語の発想、表現の違いを検討し、さらに文学作品、エッセー、天声人語のようなコラム類を選んで、仏訳を試みるつもりである。
使用教材	テキスト	・大賀正喜著 『現代フランス語作文』(*Le français tel qu'on l'écrit*) 第三書房
	参考文献	・大賀正喜著 『現代仏作文のテクニック』 大修館 ・同上 『現代フランス語名詞活用辞典』 大修館 ・大賀・メランベルジェ共著 『和文仏訳のサスペンス』 白水社 ・泉邦寿著 『日仏表現の比較』 大修館 ・鷲見洋一著 『翻訳仏文法』上・下 日本翻訳者養成センター ・大橋保夫ほか著 『フランス語とはどういう言語か』 駿河台出版社
評価方法		評価は前後期各1回の試験と授業参加への熱意によって決定する。 ときどき各自の「試作」を提出してもらう。これも評価の基準のひとつとする。
受講者に対する要望など		以下に1年間のプランを具体的に掲げるが、これはあくまで予定であって、受講者の人数・参加の仕方によっては多少の変更はありうる。

年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の授業内容の説明。参考文献・辞典の紹介。 テキストを注文するため、受講者の数を調べる。
2	テキスト使用開始。テキスト「11. 便利な表現」Ⅰを学習。具体的にテーマ別に移る前に、便利な慣用的表現をまず学ぶ。
3	同上
4	「11. 便利な表現」Ⅱ
5	同上
6	「会議」
7	「催物」
8	同上
9	「数の表現」Ⅰ、Ⅱ
10	同上
11	同上
12	「事故」「災害」
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	「事故」「災害」つづき。
2	同上
3	同上
4	「工業」「農業」
5	同上
6	日本文学の仏語訳を用いて、日仏表現の比較・検討。題材は未決定であるが、谷崎潤一郎『細雪』、井伏鱒二『黒い雨』、柳田国男『遠野物語』などを考えている。
7	同上
8	同上
9	日本文学作品、エッセー、コラムなどを選び試訳する。題材は未決定だが、芥川竜之介、壺井栄の短篇などを考えている。もちろん部分的な試作である。
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	フランス語作文 2 (旧)	担当者名	一 戸 とおる

講義の目標		日本語の新聞記事を、対応する *Le Monde* の記事を参考に仏訳する。 フランス語の記事を熟読することによって、表現をパターン化・モデル化し、日本語のなかに、この表現パターン・モデルを見いだす練習をする。これによって、フランス語の表現能力を養う。 私たちの生活の様々な面に対応するように、対象とする記事の内容は可能な限り、多種多様であるようつとめる。
講義概要		*Le Monde* の記事のなかから、仏訳する際に使えそうな語彙・表現を探す作業をはじめに行う。次に、これらを参考に、日本語の記事を仏訳する。これを、担当した学生に板書してもらい、それを訂正・修正する。以上の流れに沿って、一つの記事を1・2週で仏訳してゆく。 短い日本語の記事（5・6行）を仏訳する小テストを、年間5・6回実施する予定である。
使用教材	テキスト	適宜コピー
	参考文献	・大賀　正喜『現代仏作文のテクニック』大修館書店 ・石井　洋二郎『時事フランス語の入門』白水社 ・小林　茂『新聞のフランス語』白水社
評価方法		授業への参加態度の積極性の有無、年間を通じて5・6回程度実施する予定の小テスト、ならびに、前期・後期の定期試験を総合して、評価する。
受講者に対する要望など		同時に開講している『時事フランス語 1 (旧)』を合わせて聴講すると、一層効果が期待できるかもしれない。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	前年度後期試験の講評、ならびに、授業の目標と、具体的な進め方の説明
2	事故関連記事（飛行機墜落、船舶沈没、ガス爆発、洪水、など）の仏訳
3	同上
4	同上
5	同上
6	スポーツ関連記事（テニス、陸上、自転車、サッカー、など）の仏訳
7	同上
8	同上
9	同上
10	政治関連記事（選挙、首脳会議、スキャンダル、など）の仏訳
11	同上
12	同上
備考	

後期

週	主要テーマ
1	前期試験の講評
2	賞関連記事（ノーベル賞、カンヌ映画祭、音楽コンクール、など）の仏訳
3	同上
4	同上
5	死亡記事（文学者、政治家、学者、デザイナー、など）の仏訳
6	同上
7	同上
8	同上
9	3面記事（殺人、強盗、麻薬、詐欺、など）の仏訳
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科　目　名	フランス語作文　3　(旧)	担当者名	S. Giunta

講義の目標		
講義概要	Connaissez-vous (bien) la France ? Partons à sa (re-)découverte. Dans ce cours 12 thèmes seront présentés (la capitale, les régions, la culture, la gastronomie, les arts, les loisirs etc …) qui vous permettront de mieux connaître ce beau pays que vous avez peut-être déjà visité ou bien dans lequel vous avez bientôt l'intention de vous rendre. Chaque texte étudié sera suivi d'un exercice de compréhension orale et écrite, ainsi que d'un exercice de thème et de version. Support vidéo, si possible.	
使用教材	テキスト	• Manuel ; PROMENADES, - H. Takahashi - Ed. Asahi
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語作文 4 (旧)	担当者名	M. 水林

講義の目標		Écrire en français différentes sortes de textes sans passer par le biais de la traduction.
講義概要		Il s'agit d'un entraînement systématique à l'écrit. Tout le long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir des textes en français. Le principe consistera à aller du simple au complexe. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés.
使用教材	テキスト	Photocopies.
	参考文献	• Un dictionnaire français. Par exemple, le *Dictionnaire du français langue étrangère niveau II,* ou bien le *Dictionnaire du français contemporain.* Ces deux dictionnaires, publiés chez Larousse, sont diffusés au Japon en format de poche aux éditions Surugadaï-shuppansha.
評価方法		1. Contrôle continu, ce qui signifie que les étudiants doivent participer au cours *chaque semaine.* 2. Test lors du dernier cours du 1er et du 2e semestres.
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語作文 5 (旧)	担当者名	Y. Perrot

講義の目標		LE FRANÇAIS EST D'ABORD UNE LANGUE DE LA PHRASE ET DONC DU TEXTE. ON ÉTUDIERA PROGRESSIVEMENT LES DIFFÉRENTS ÉLÉMENTS QUI SERVENT À CONSTRUIRE UN TEXTE POUR POUVOIR S'EXPRIMER PAR ÉCRIT DE FAÇON CLAIRE ET ORDONNÉE.
講義概要		LES SUJETS SERONT VARIÉS. DE LA RÉDACTION DE LETTRES PRIVÉES OU PROFESSIONNELLES À L'APPRENTISSAGE DU MÉTIER DE JOURNALISTE.
使用教材	テキスト	TOUS LES DOCUMENTS SONT FOURNIS PAR LE PROFESSEUR.
	参考文献	AUCUN DOCUMENT SUPPLÉMENTAIRE N'EST NÉCESSAIRE.
評価方法		UN CONTRÔLE CONTINU (ÉVALUATION DE CERTAINS EXERCICES) ET UN EXAMEN EN FIN D'ANNÉE.
受講者に対する要望など		AUCUNE CONNAISSANCE PARTICULIÈRE N'EST EXIGÉE. MAIS ATTENTION : CE COURS *N'EST PAS* UN COURS DE GRAMMAIRE !

科目名	フランス語作文 6 (旧)	担当者名	Ph. Vanney

講義の目標		Savoir écrire en français avec logique et clarté.
講義概要		Exercices variés en classe pour prendre conscience de l'ordre des mots dans une phrase, de la ponctuation, de l'ordre des phrases et des paragraphes dans un texte. Recherche des articulations, du plan. Exercices de résumé. Une fois par semestre, chaque étudiant rédige une composition dont le sujet est libre. Le texte est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.
使用教材	テキスト	Polycopiés (les sujets concernent plutôt la société française).
	参考文献	• *Comment dire? Raisonner à la française*, Clé International. • *Traité de la ponctuation française*, J. Drillon, Gallimard. • 3 livres de la Collection Profil, Hatier, sur le sujet.
評価方法		Le grand devoir semestriel est noté.
受講者に対する要望など		Ce n'est pas un cours de traduction.

科目名	フランス語会話 1 (旧)	担当者名	M. Carton

講義の目標		LE FRANÇAIS : UNE LANGUE PARLÉE.
講義概要		À PARTIR DE DOCUMENTS ÉCRITS-VIDÉO-ORAUX, DE SITUATIONS RÉELLES DE CONVERSATION, LES ÉTUDIANTS PRENDRONT LA PAROLE, S'EXPRIMERONT EN FRANÇAIS.
使用教材	テキスト	PAS DE TEXTE
	参考文献	
評価方法		CONTRÔLE CONTINU ET EXAMEN FINAL
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 2 (旧)	担当者名	H. Derieppe

講義の目標		L'objectif de mon cours sera de permettre aux étudiants de s'exprimer sans crainte dans des situations de communication diverses.
講義概要		Le cours se déroulera en suivant la progression du Nouveau Sans Frontières 2 en mettant bien sûr l'accent sur les exercices oraux. Des exercices et documents complémentaires seront ajoutés en fonction des besoins.
使用教材	テキスト	• Le Nouveau Sans Frontières 2
	参考文献	
評価方法		La notation se fera sur contrôle ou dossier à rendre, point à décider avec les étudiants en début d'année scolaire.
受講者に対する要望など		Une participation *active* aux cours sera nécessaire à l'obtention de l'unité de valeur.

科目名	フランス語会話 3 (旧)	担当者名	J. F. Doppia

講義の目標		DEVENIR ENTIÈREMENT CONTEMPORAIN DE CORPS ET D'ESPRIT A LA LANGUE ÉTRANGÈRE, C'EST PENSER QUE MÊME S'IL Y A DES ERREURS, DES OUBLIS, DES MOTS INCONNUS, TOUT CELA EST AUSSI ATTACHÉ A DES SITUATIONS DE DISCOURS, ET PAR CONSÉQUENT COMPRIS PAR CETTE LANGUE.
講義概要		FILMS, TEXTES LITTÉRAIRES, PHILOSOPHIQUES, POLITIQUES, MUSIQUE, TRADUCTIONS : A TRAVERS TOUT CELA, CERNER UN CONTENU DE CULTURE ET SES CONNEXIONS AVEC TOUTES LES AUTRES, UN TEMPS, UN CHAMP, DES UNITÉS DE SAVOIR VALABLES AUSSI POUR ICI.
使用教材	テキスト	DIVERSES PHOTOCOPIES
	参考文献	
評価方法		A LA FIN DE CHAQUE SEMESTRE SOUS LA FORME D'UNE 作文 SUR UN OU DEUX SUJETS AU CHOIX.
受講者に対する要望など		

科　目　名	フランス語会話　4　(旧)	担当者名	R. Floirac

講義の目標		Le but de ce cours est de permettre aux étudiants de parler en francais des situations de communications les plus courantes de la vie quotidienne. Ce cours s'adresse aux étudiants qui veulent améliorer leur capacité orale. Les exercices et la conversation permettront une compétence en français de la vie de tous les jours. L'étudiant est amené à comprendre puis à utiliser les structures essentielles du français parlé actuel. Il est souhaitable que les étudiants qui désirent s'inscrire à ce cours aient un bon niveau en français. Les explications de grammaire seront limitées, les étudiants devant consulter le guide en japonais.
講義概要		
使用教材	テキスト	• H. KURUTA / S. GIUNTA- ; *SANS ESCALE*, SOBI-SHUPPANSHA
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科　目　名	フランス語会話　5　(旧)	担当者名	L. Fontaine

講義の目標		
講義概要	Nous nous servirons du *Nouveau Sans Frontières 2* dont nous commencerons l'étude à la deuxième unité. Il ne sera pas nécessaire d'acheter le cahier d'exercices. Il n'y aura pas d'examen final mais l'évaluation sera continue, c'est-à-dire qu'il y aura fréquemment de petits tests oraux et écrits. La présence aux cours sera obligatoire.	
使用教材	テキスト	Nouveau Sans Frontières 2
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科　目　名	フランス語会話　6　(旧)	担当者名	S. Giunta

講義の目標		
講義概要	Le français du voyage. Le français du travail. Dans ce cours seront présentés divers thèmes de la vie quotidienne française (rencontrer des amis, aller au restaurant, téléphoner, faire une réservation d'hôtel etc …). Préparation au voyage ou au séjour en France. Utilisation de cassettes au laboratoire avec support vidéo.	
使用教材	テキスト	• Manuel ; SANS ESCALE, - H. Kurakata / C. Pitois - Ed. Sobi
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話　7（旧）	担当者名	Ch. Kessler

講義の目標		Nous nous fixons comme objectif de donner aux participants de ce cours les moyens de s'exprimer en français, aussi bien à l'oral qu'à l'écrit, à l'occasion d'échanges de vues voire de débats.
講義概要		A partir de textes simples proposés aux étudiants, on s'attachera, par l'étude du vocabulaire et de la grammaire, à comprendre les idées principales qui y sont exprimées. Puis dans un deuxième temps, on prolongera cette étude par des discussions orales ou des travaux écrits permettant à l'étudiant d'exprimer son point de vu personnel.
使用教材	テキスト 参考文献	Il s'agira de photocopies de textes tirés des sources les plus variées (journaux, livres, manuels scolaires…) sur les grands thèmes qui préoccupent les français.
評価方法		Ils se feront à partir de la volonté des étudiants à vouloir s'exprimer oralement sur les sujets étudiés, ainsi que par des travaux écrits.
受講者に対する要望など		

科　目　名	フランス語会話　8　(旧)	担当者名	B.P. Leurs

講義の目標		Ce cours est destiné à améliorer d'abord la compréhension orale des étudiants : il suffit d'acquérir quelques techniques simples pour mieux sélectionner les informations importantes. Ensuite, il s'agira de perfectionner l'expression orale en utilisant des documents et des supports variés.
講義概要		Chaque leçon comprendra une partie COMPRÉHENSION et une partie EXPRESSION. Le cours se déroulera dans une salle audiovisuelle spécialement équipée. À partir de situation de la vie quotidienne, l'étudiant est amené à réutiliser le lexique et les constructions étudiées. L'objectif étant l'appropriation, un large choix de documents viendra enrichir le manuel. Autant d'occasions nouvelles pour mieux communiquer.
使用教材	テキスト	"SANS ESCALE"
	参考文献	
評価方法		À la fin de chaque semestre, aura lieu un examen écrit et oral qui portera sur le programme étudié.
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 9 (旧)	担当者名	M. 水林

講義の目標	Ce cours a pour objectif l'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.	
講義概要	Nous travaillerons à partir d'interviews de Français, de textes courts qui évoquent la vie quotidienne des Français d'aujourd'hui. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer *activement* à tous les types d'exercices proposés.	
使用教材	テキスト	Photocopies.
	参考文献	
評価方法	1. Contrôle continu, ce qui signifie que les étudiants doivent participer au cours *chaque semaine*. 2. Test lors du dernier cours du ler et du 2e semestres.	
受講者に対する要望など		

科　目　名	フランス語会話　10　(旧)	担当者名	Ch. Pelissero

講義の目標		L'OBJECTIF DE CE COURS SERA DE VOUS FAIRE PARLER FRANCAIS. NORMAL DIRIEZ - VOUS・・・MAIS COMBIEN D'ÉTUDIANTS RESTENT SILENCIEUX DANS LES COURS DE LANGUE. CE COURS SERA UN ESPACE D'ÉCHANGES OUVERT À TOUS CEUX QUE LE CONCEPT DE DISCUSSION INTÉRESSE.
講義概要		LE COURS S'ARTICULERA AUTOUR DE VOS DÉSIRS. VOUS SEREZ LES MAÎTRES DE SON CONTENU, JE N'EN SERAI QUE L'ORGANISATEUR. VOUS SEREZ DONC LIBRES DE CHOISIR LE THÈME DE DISCUSSION POUR CHAQUE COURS.
使用教材	テキスト	SANS DOUTE UTILISERONS NOUS DES JOURNAUX SOUS FORME DE COPIES.
	参考文献	REGARDEZ DANS UN DICTIONNAIRE LA DÉFINITION DU MOT DISCUSSION (EN FRANCAIS)
評価方法		LE SEUL CRITÈRE SERA VOTRE CAPACITÉ SOCIALE À ÉCHANGER DES POINTS DE VUE ET VOS CAPACITÉS LINGUISTIQUES À LES FORMULER.
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 11 (旧)	担当者名	Y. Perrot

講義の目標		CE COURS POURSUIT DEUX OBJECTIFS : TOUT D'ABORD FAIRE ACQUÉRIR AUX ETUDIANTS LES ÉLÉMENTS LINGUISTIQUES NÉCESSAIRES À LA DISCUSSION : S'INFORMER, ARGUMENTER, JUGER. ENSUITE PRÉSENTER UNE IMAGE VIVANTE DE LA SOCIÉTÉ FRANÇAISE ACTUELLE.
講義概要		UN THÉME UNIQUE : LES GOÛTS DES FRANÇAIS. CHAQUE SUJET, PAR EXEMPLE LES LOISIRS, L'AUTOMOBILE, LE LOGEMENT, L'ALIMENTATION ETC . . . SERA L'OCCASION D'UN VOCABULAIRE SPÉCIFIQUE ET SERA SUIVI D'UN DÉBAT.
使用教材	テキスト	PAS DE LIVRE. DOCUMENTS PHOTOCOPIÉS ET VIDÉO SERONT NOTRE MATÉRIEL DE BASE.
	参考文献	• "LA FRANCE D'AUJOURD'HUI" (CLÉ INTERNATIONAL) • "L'EXPRESS" TEXTES DE CIVILISATION" (HATIER)
評価方法		UNE NOTE DE PARTICIPATION EN CLASSE ET UN EXAMEN À LA FIN DE L'ANNÉE.
受講者に対する要望など		CURIOSITÉ ET ENTHOUSIASME SONT PLUS IMPORTANTS QUE LE "NIVEAU" DES ÉTUDIANTS.

科目名	フランス語会話 12 (旧)	担当者名	R. 佐久間

講義の目標		Objectifs : Familiariser les étudiants avec l'histoire (de France) et leur apprendre à faire un résumé (travail écrit) et à raconter (travail oral). L'enrichissement lexical est aussi un de nos objectifs.
講義概要		Les textes du livre, enregistrés sur cassette, seront à la disposition des étudiants dès le premier cours. L'écoute du texte (obligatoire) ainsi que le résumé écrit se feront à la maison. En classe, un résumé modèle sera donné. Une partie du cours sera consacrée à raconter l'histoire et l'autre partie à enrichir le vocabulaire.
使用教材	テキスト	LE LIVRE DE L'HISTOIRE DE FRANCE (DECOUVERTE CADET) GALLIMARD
	参考文献	Un dictionnaire français (unilingue) est recommandé
評価方法		Un contrôle oral (juillet) + un contrôle écrit (janvier).
受講者に対する要望など		Le cahier de l'étudiant qui est un reflet du travail personnel comptera dans la note finale.

科目名	フランス語会話 13 (旧)	担当者名	Ph. Vanney

講義の目標		Arriver à s'exprimer oralement en français sur l'actualité sociale et politique française. Améliorer son vocabulaire passif et actif dans ce domaine.
講義概要		Dans la première partie de l'année, présentation d'exercices et de jeux qui permettent aux étudiants de s'exprimer, par exemple : devinettes, mots croisés géants, discussions sur des photos, une bande dessinée etc. Puis, peu à peu, introduction d'exercices plus complexes : petits exposés, débats pour ou contre. Finalement, selon le nombre des étudiants, tentative de jeu de rôle. Le cours ne progresse pas en fonction de la grammaire et de ses difficultés mais du contenu des thèmes pour essayer d'aboutir à une utilisation, aussi naturelle que possible, du vocabulaire sociopolitique.
使用教材	テキスト	Polycopiés quand cela est nécessaire.
	参考文献	Revues et journaux français et japonais.
評価方法		Cela dépend du nombre des étudiants : soit une note de participation soit un petit examen oral à la fin.
受講者に対する要望など		

科目名	時事フランス語 1 (旧)	担当者名	一戸 とおる

講義の目標		私たちの生活を取り巻く様々な領域（政治、経済、文化、レジャー、など）について、概略的な知識を持ち、かつ、それぞれの領域に関して自らの意見を、専門的とはいかずとも、一般的に表現する（書く・話す）能力を養うことを目標とする。
講義概要		可能な限り多様な領域にわたって、*Le Monde, L'Evénement du jeudi, Les Clés de l'actualité, etc.* の新聞・雑誌・その他の documents authentiques から抜粋した文章を材料にして、その扱っている内容、その文章に現れる語彙・表現の拡張、などについて問題にする。 また、同一の内容を扱った音声によるテクスト（主として、衛星放送で放映している *France 2* のニュース）を材料にして、上記と同じ作業をする。 なお、文章によって、理解しやすいものと理解しにくいものがあるが、前期は、実用フランス語技能検定試験（DAPF）2級程度の文章、後期は、同仏検準1級程度の文章を材料とするつもりである。
使用教材	テキスト	適宜コピー
	参考文献	・石井　洋二郎『時事フランス語の入門』白水社 ・小林　　茂『新聞のフランス語』白水社
評価方法		授業への参加態度の積極性の有無、年間を通じて5・6回程度実施する予定の小テスト、ならびに、前期・後期の定期試験を総合して、評価する。
受講者に対する要望など		同時に開講している『フランス語作文 2 (旧)』を合わせて聴講すると、一層効果が期待できるかもしれない。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	授業の目標と、具体的な進め方の説明
2	社会関連（失業、男女の地位、移民、環境、など）
3	同上
4	同上
5	同上
6	政治関連（政治体制、政党、選挙、など）
7	同上
8	同上
9	同上
10	経済関連（国際貿易収支、農業問題、通貨、など）
11	同上
12	同上
備考	

後期

週	主要テーマ
1	教育関連（教育制度、現代の若者、など）
2	同上
3	同上
4	同上
5	文化関連（文学、映画、音楽、など）
6	同上
7	同上
8	同上
9	レジャー関連（余暇の過ごし方、スポーツ、など）
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	時事フランス語 2（旧）	担当者名	伊藤幸次

講義の目標		主として、衛星中継によるフランスのテレビ・ニュース番組を視聴することにより、映像を通じて得られる豊富な文明情報を吸収しつつ、時事的なフランス語の聞き取り・書き取り能力を養う。また地方語や非言語コミュニケーションについての入門も行う。従として活字メディアを速読するための基礎的訓練を行う。
講義概要		知的な人が、母国で、母国語のテレビを長時間視聴するのはつまらぬ事である。得られる情報が大部分既知の物である上、番組は大てい、「貧しき愚者たち」のためにつくられているからである。 外国語学習のために、その国の人達自身のためにつくられたテレビ番組を視聴するのは素晴らしいことである。学習者は、言語的にも文化的にも、幼な子の段階にしか達していないからである。その上、不要な商業的・政治的メッセージを見分け、切り捨てるだけの知性を備えている。授業では、ニュース番組の視聴を中心に、新聞・雑誌の記事の速読や自宅学習を組み合わせて進める。
使用教材	テキスト	France 2（NHK 衛星第二） *Clefs de l'actualité, Evénements du Jeudi*
	参考文献	
評価方法		毎回行うアンケート、書き取り・聞き取り試験、口頭発表などの評価を精算して採点する。
受講者に対する要望など		三年生を優先。28 名限定。一回目の授業で受講者を決定するので必ず出席すること。

年 間 講 義 予 定

主 要 テ ー マ

最初に、簡単な授業パターンの紹介を行い、受講者を決定する。次に、フランスのジャーナリズムの概要および主要な新聞・雑誌等の紹介をする。年間を通じての主要教材は、NHK 衛星第二放送で放映される France 2 のニュースである。原則として授業当日の朝、もしくは前週のものを使用する。常に新鮮でありたいと願っているからである。視聴方法は1タイトルのみを繰り返して視る場合、2ないし数タイトルを視る、または20分間を通して視るなど各種ある。最後の方法は学習者の疲労がはなはだしいのでたまにしか使えない。フランス語と日本語訳を交互に聞く場合、フランス語のみで集中する場合、日本語だけで内容紹介をする場合があるが、何れをとるかは学習者の能力と、素材の言語的難易度によって決めて行く。日本語訳は部分的で、誤訳・意訳などもあり、フランス語との異同を指摘するのも楽しい。聞き取り・書き取りについては、政治家の演説やゆっくりしたインタビューなどの単語やフレーズの繰り返し練習から始めて、最後には1タイトル全体の理解にまでつなげたい。必要に応じて、キー・ワードや重要表現のリスト、文章全体のスクリプトなども配布するが、あくまで理解を深める手段であって、中心は耳の訓練である。内容は国内政治・外交・国際問題・経済・文化・科学・社会・スポーツ・雑報など多岐にわたるが、学習者の興味をひくのは最後の三つあたりであるようだ。授業を月曜に設定しているのは、フランスで日曜夜のニュースをあつかうことになり、スポーツがふくまれているからでもある。

活字教材のうち、Clefs de l'actualité はフランス人の中・高校生向きの時事解説紙である。キー・ワードや現代史的解説などもついており、全体に易しいフランス語で書かれていることもあって入門向きである。熱意のある人は3ないし6ヶ月個人で購読することをすすめたい。Evénements du Jeudi の方は成人向けであるが、比較的平易なフランス語で書かれ、毎回特集を柱に解説が組んであり、速報性はねらっていない。何れも週刊であるが、適当な記事をコピーして配布し、教室で速読・参照するか、自宅学習用とする。他に Le Monde の特集号なども、関連のある記事は採用することがある。これ等はすべて、フランス語共同研究室に備え付けられているので、随時参考とすることができる。

以上購入する必要のあるものは一切無いが、自宅で衛星放送を受信し、予習・独習できる者が有利であるには間違いない。その便の無い者は、外国語教育研究所で当日のフランス2の録画テープを貸し出しているので、AV 学習室で自習できる。

科　目　名	商業フランス語　1　(旧)	担当者名	浅　野　信二郎

講義の目標		パリ商工会議所（CCIP）による商業フランス語の能力認定（初級）試験準備用の下記教科書と共に、実務の書類及び Université Internationale d'Eté 94（Université de Nice-Sophia Antipolis）での Francais des affaires のクラスで使用された資料のプリント類を利用し、実務において必要なフランスの社会生活上の各種要素も説明して、簡単な商業文を書けるようにすることを目標とする。
講義概要		商業、経済関係用語の説明から始めて、商業文の各要素を説明し、その練習を繰り返しながら、構成法を習得させる。 例文によってその内容を要約する方法と共に日本での実務上での用語の使い方も練習し、フランスでの生活についても考える。
使用教材	テキスト	・L. CORADO et als ; *Français des Affaires 350 exercices* [Hachette]
	参考文献	随時配布のプリント [Université Internationale d'Eté 94（Université de Nice-Sophia Antipolis）Français des affaires の講義資料、他]
評価方法		授業への出席（20%）、毎授業中の小練習の評価（25%）、宿題の提出期限の遵守度と成果（提出課題）及び試験の累積評価（55%）によって評価する。
受講者に対する要望など		受講希望者は十分な予習をし、宿題を期限に提出する意欲を持っていること。授業中の練習のために毎時間、仏和辞典。和仏辞典を持参すること。Robert 程度の仏語辞書利用の習慣を持っているのが望ましい。

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	使用教科書の利用法を説明し、受講希望者の学力レベルをチェックするために受講理由についての小作文を書かせる。次週の授業のための履歴書のプリント資料を配布。
2	Le mot [pp 8～10（＃3迄)] の練習（適合語を選ぶためにRobert等の辞典をひく練習を勧める)。履歴書を書く練習。
3	履歴書の添削結果に基づいての全般的注意と、実際での仏日の違いについて考える。Le mot [pp 10（＃4以下)／11] 専門用語の練習。
4	La pharase [pp 12～14] に従って基本文形の復習をしながら、経済関係用語の説明。NF Z—11.001等のコピーを配布。フランス語週間誌の記事の和訳を宿題とする。
5	商業文の形式、各要素とそれぞれの配置について説明し、en tête の部分の記載事項の利用法を説明する。
6	Fiches téléphoniques [p. 20＃1] で連絡メモの書き方を練習。Rédaction de téléx [pp 23～26] テレックスの要素、省略法の説明。記載すべき項目の復習をp 25＃3で練習。
7	第4回目の授業で出題した宿題の和訳について講評し、業務的な和訳について考える。 Formules de début et fin de lettres [pp 29～30] の練習。
8	Compréhension [pp 31～33＃3迄] の説明と練習 フランスの法人の形態の説明
9	Compréhension [pp 33＃4～36＃8迄] の説明と練習 フランスの食事
10	Mise en ordre de lettres [pp 37／38] に従って、corps de lettre の論理的構成の練習。 輸出信用状、建値の説明。
11	Lettres à compléter [pp 39～43, ＃1～5] の練習。空白部に入れる要素の論理的関連から的確な用語の選び方、不定法文の使い方の練習。
12	前期試験
備考	

後期

週	主要テーマ
1	前期試験の結果の講評。夏期休暇中の課題の和訳の講評。 Lettres à compléter [pp 44～47, ＃6～9] の練習。
2	Rédaction de lettre [p. 48] の所与の要件を使って、＃1の問い合わせの手紙を書く練習をする。
3	Rédaction de lettre [p.48] ＃2、＃3受注の手紙（無条件受諾と希望されたより長い納期が必要な場合）の説明と練習。
4	Rédaction de lettre [pp 49 et 52, ＃5 et ＃7] の練習。 フランスのホテルの格付け（NN)。
5	価格提示の際の建て値（FAB, CAF等）の復習。 Rédaction de lettre [p. 52, ＃8] Appel d'offres（引き合い）に対するオッファー文を書く練習をする。
6	Lettres à corriger [pp 56～58] の練習により、商業文の用語と日常会話での用語の違いを再認識させる。
7	Traduction de pharases [pp 103～104] 1. La vente～2. L'entreprise の練習。日本語との表現法の違いの説明。
8	Traduction de pharases [pp 104～106] 3. L'économie～5. Le personnel の練習。 日仏の商習慣の違いの説明。
9	Traduction de lettres [pp 107 et 108] 1. Changement d'adresse et 2. Suspension de paiement の練習。 引き合い文又はホテル予約の手紙の練習。
10	Phrases à compléter [pp 60 et 61] 1. Satellite, 2. Aéronautique の練習。記事の理解のための背景その他一般常識、専門知識必要性を考え、資料の集め方の説明。
11	Documents de vente の説明、輸出信用状の再説明。会話での丁寧さの度合いの違いを考える。
12	後期試験
備考	

科目名	商業フランス語　2，3（旧）	担当者名	松本　正

講義の目標		フランス語商業通信文の形式書き方の基本を習得させる。主たるテキストは松本講師が実社会で実際に発信、受信したものをプリントとして渡す。
講義概要		
使用教材	テキスト	・松本正著『フランス語経済記事の読み方』第三書房
	参考文献	
評価方法		前・後期のテキスト並びに出欠状態により決定する。
受講者に対する要望など		商業フランス語2（旧）と商業フランス語3（旧）を重複して履修することはできない。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	商業通信文（手紙）の性質
2	商業通信文の形式・体裁
3	料紙の体裁
4	日付・宛名・レフェランス・オブジェについて
5	頭書・呼掛け・の表現
6	結尾の表現
7	商業通信文に使用される略語
8	招待状の基本形式
9	招待状の書き方訓練と使用略語について
10	実務文（発信文）の書き方訓練
11	実務文（受信文）の書き方訓練
12	経済界における紹介状の基本形式について
備考	

後期

週	主要テーマ
1	実務文（発信）の書き方訓練
2	実務文（受信）の書き方訓練
3	実務文（発信）の書き方訓練
4	実務文（受信）の書き方訓練
5	実務文（販路開拓依頼の受信文）について
6	同上に対する回答（発信文）の書き方訓練
7	前期・後期を通じて習得させた基本表現による書き方訓練
8	同上
9	副読本の主要文例により商業通信文にひんぱんに使用される経済用語の習得訓練
10	同上
11	同上
12	通信文・ファックスについて
備考	

科目名	フランス語学概論　1, 2, 3, 4 （旧）	担当者名	一男哉 光秀卓とおる 下田地戸 木山横一

講義の目標		1年で学んだフランス語基礎文法の知識を復習し、さらに確かなものにする。
講義概要		本年から、この講義は新カリキュラムの「フランス語Ⅱ・文法」との合併授業になります。最初の授業には必ず出席し、各担当者からテキストや授業の進め方について説明を聞くようにしてください。
使用教材	テキスト	各担当者による。
	参考文献	
評価方法		各担当者による。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語史（旧）	担当者名	山田秀男

講義の目標		フランス語の文法を学んでも、何故そうなるのか分からないことが少なくない。例えば、travail の複数は travaux だとはいっても、何故そうなるのかは誰も教えてくれないのである。こうした疑問を、現代フランス語が形成されていく過程を見ることによって解明し、フランス語に関する知識と理解を一段と深めることを目指す。
講義概要		フランス語の母体であるラテン語から出発し、さまざまな時代の多くの人びとの努力によって、現代フランス語が形成されるまでの主要な流れを概観する。 各時代のフランス語の特徴を理解するため、まず、それぞれの時代の歴史的背景・社会的状況を概観した後、その時代のフランス語を、語彙、発音と綴り字、文法・統辞論、といった具体的な面から検討する。そのあとで、各時代を代表する著作家の作品を取り上げて、その時代のフランス語の文章の実例を見る。
使用教材	テキスト	・山田秀男著『フランス語史』駿河台出版社
	参考文献	講義中に、必要に応じて指示し、紹介する。
評価方法		評価は、出席状況と定期試験による。
受講者に対する要望など		出席を重視し、出席点を高くする。

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	1年間の講義方針、講義内容、授業形態などの説明はもちろんのこと、参考文献案内から評価に関することまでの全般にわたり、受講の決定に役立つあらゆる情報を提供する。
2 3	―古典ラテン語から俗ラテン語へ― ローマ帝国とガリアとの関係を中心に、歴史的背景を概観したのち、フランス語の母体であるラテン語の特質を見る。 つづいて、古典ラテン語と俗ラテン語、さらにロマン語についての概念を把握する。
4 5 6	―古フランス語― まず、古フランス語の歴史的背景や社会的状況を概観する。つづいて、古フランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統辞論について学び、古フランス語の具体像を把握する。 実際の古フランス語の文例として、古フランス語による代表的作品である『ローランの歌』と『オーカッサンとニコレット』を引用し、古フランス語の特徴を確認する。
7 8 9	―中期フランス語― ここでは、中期フランス語の前半期を取り上げる。まず、その時代である十四・十五世紀の歴史的背景・社会的な状況を概観する。 つづいて、この時代のフランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統辞論などの特徴を学び、中期フランス語（前半期）の具体像を把握する。 この時代のフランス語の実例として、フロワサールとヴィヨンの作品を引用して、当時のフランス語を、散文と韻文の両面から検討する。
10 11 12	ここでは、中期フランス語の後半期を扱う。この時代は十六世紀で、フランスのルネサンス期にあたり、その歴史的背景・社会的な状況はこれまでより以上に言葉と大きくかかわっていることを見る。 時代背景を通観したのち、この時代のフランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統辞論を検討し、その具体像を把握する。 この時代のフランス語の実例として、デュ・ベレーとモンテーニュの文章を引用し、検討する。
備考	

後期

週	主要テーマ
1 2 3	―古典フランス語― まず、十七世紀のいわゆる古典フランス語の時代の歴史的背景や社会的状況を、言語との関連において、通観する。 つづいて、古典フランス語の語彙、発音、綴り字の特徴を見たのち、文法・統辞論を、現代フランス語と比較しながら、検討する。 古典フランス語の実際を、ヴォージュラとパスカルの引用によって見るとともに、現代フランス語との違いを検討する。
4 5 6	―十八世紀フランス語― 十八世紀の時代背景を通観し、言語の面からこの時代の傾向と特色を見る。つづいて、十八世紀フランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統辞論を概観し、その特徴を把握するとともに、現代フランス語との差異を検討する。 ヴォルテールとルソーの引用によって十八世紀フランス語の実際を見るとともに、現代フランス語との異同を検討する。
7 8 9	―十九世紀フランス語― 十九世紀フランス語の時代背景を通観し、言語との関連において、この時代の特徴を把握する。 つづいて、十九世紀フランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統辞論を概観し、その特徴を探るとともに、この時期に生まれた新しい学問である言語学にも触れる。 十九世紀のフランス語に大きな影響を与えたユゴーとリトレの引用を読み、その特質を探る。
10 11 12	―現代フランス語― 第一次世界大戦後の時代背景・社会状況を、言語との関連において概観する。つづいて、現代フランス語、とりわけ第二次世界大戦後のフランス語の特徴を、語彙、発音、言語レベルなどの面から検討し、現代フランス語の特質と変化の傾向を探る。 最後に、全体のまとめと、質疑応答による補足説明を行う。
備考	

科目名	フランス語学特殊講義 （旧）	担当者名	木下光一

講義の目標		フランス語を初めて習った時に、おやこれはどうしてこうなるのだろう、と思ったことが、いろいろあったはずだ。その大部分は、ラテン語からフランス語への2000年の変遷を逆に辿れば理由がわかる。現代フランス語の文法規則からいくつかの問題をとりあげて、英語との対比を交えながら、そういう探索をやってみよう。専ら現代フランス語の仕組みを分析する次年度の講義と合わせて、フランス語学の基礎を与えるのが目標。
講義概要		とりあげる問題は：リエゾン、綴り字と発音との関係、単語アクセントの位置、未来・条件法の活用形の由来、複合過去の由来、助動詞 être、否定表現、疑問表現、比較級・最上級、名詞の文法的性・数、定冠詞・不定冠詞・部分冠詞、人称代名詞など。そのいずれもが、なぜ？という知的好奇心の問いかけの対象となる。各回冒頭に前回までの講義の要旨を述べる。1・2年次のフランス語以上の予備知識は必要としないが、何かのためのフランス語ではなく、フランス語そのものが観察・研究の対象となる。日本語をも含めて、ほかの言語への興味も湧いてくれれば幸い。
使用教材	テキスト	毎回私製のプリントを配布する。
	参考文献	それぞれの問題に応じてその都度指示する。
評価方法		前期末と後期末に試験を行う。配布プリント、辞書、参考文献、ノートなどすべて持込み自由だが、自ら考えをまとめて論じなければならぬ出題なので、講義内容の精確な理解と明解な論述の力が必要。
受講者に対する要望など		

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：言語の歴史的（通時的）変化と、ある時点での（共時的）システムとしての機能。今年度の講義では、具体的にどういう問題をどういう方法で扱うか。
2	綴り字と発音との関係（1）：リエゾンとは何か。発音の変化と綴り字の固定化。例えば grand はなぜ［t］でリエゾンし、一方で grand-mère などがあるのか。
3	綴り字と発音との関係（2）：英語不定冠詞 a～an の交替とフランス語のリエゾン。綴り字改変の歴史的背景。フランス語の h。
4	前講のつづき：無音の h と有音の h。有音の h の歴史的背景と言語内の誘因。
5	単語アクセントはなぜ末尾音節にあるのか。-ment 型副詞と英語の-ly 型副詞。
6	動詞の活用形（1）：未来形・条件法形の語尾と avoir の現在形・半過去形。いくつかの言語に見る未来の表現形式。
7	前講のつづき：不定詞＋avoir がなぜ未来を表現できるか。現代フランス語の未来形語幹。aller の特異性。
8	動詞の活用形（2）：複合過去と単純過去。avoir＋過去分詞がなぜ完了を表現できるか。
9	前講のつづき：なぜ複合的形式で完了を表わすに至ったか。単純過去はなぜ衰退したか。
10	助動詞 être：なぜ être で完了を表わせるのか。 être による複合過去の形成過程。
11	前講のつづき：助動詞 avoir・être の使い分け。代名動詞と受動態の助動詞としての être。
12	前期のまとめ。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	否定表現：なぜ ne と pas の 2 要素か。語源に 2 要素を含む仏 non, 英 not, none, no, 独 nicht, nein。 2 要素否定の発展。
2	前講のつづき：pas と point。否定の冠詞 de。 1 要素否定への傾向。虚辞の ne。
3	疑問表現：フランス語の疑問表現の多様さと独自性。複合倒置の起源。
4	前講のつづき：est-ce que… の起源。 3 人称単数主語代名詞の倒置に現われる -t- の由来。
5	比較級・最上級の表現：英語との共通点と相違点。plus … que, plus de… と supérieur à など。語尾変化型から分析的表現形式へ。
6	前講のつづき：フランス語の最上級はなぜ定冠詞＋比較級なのか。
7	比較構文：ラテン語の 2 形式とその名残り。比較構文に現れる虚辞の ne。supérieur à と比較構文。
8	名詞の文法的性：なぜ男性・女性の別があるのか。語形によってその差がわかるか。中性の消失。
9	なぜ複数の語尾は -s なのか。格の消失。フランス語の -s と英語の -s。
10	冠詞：定冠詞とは何か。定冠詞と主語・目的語の代名詞とのつながり。
11	前講のつづき：不定冠詞：部分冠詞とは何か。de＋les → des, de＋le → du は不定冠詞・部分冠詞とどうつながるか。
12	後期のまとめ。
備考	

科目名	フランス語学特殊講義B-1（旧）	担当者名	小石　悟

講義の目標		言語学・フランス語学の入門として、具体的な事例をとりあげながら、いくつかの基本的な概念を説明します。特に各々の概念を理論的に説明すること（主として発話理論の観点から）に重点を置きます。
講義概要		限られた時間内では言語学の全ての流派、全ての分野をカバーすることは出来ないので、ここでは現在フランスの言語学界で最も興味ある成果をあげている発話理論による統辞論および形式意味論のみを取扱います。と言えば難しそうですが、例えば「日本語に主語はあるのか」とか「英語の時制はいくつあるのか」というような具体的な問題を考えながら言語学的アプローチを学んでいこうと思います。例文もフランス語に限らず、日本語、英語、ハンガリー語、キーチェ語など出来るだけ幅広く取り上げたいと思います。
使用教材	テキスト	プリントあるいは適宜指示する
	参考文献	
評価方法		講義になるので出席重視。学期末にレポートを提出する。
受講者に対する要望など		受講者に対する注意：この講義は前期のみの講義です。通年受講したい人はB-2にも登録すること。前期出席出来ない人はB-2だけでも構いません。内容的にはB-1を受講していなくても構わない。

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	Sujet - prédicat, 日本語に主語はあるか
2	ergatif（能格），格と主語の関係、ergatif の存在が主語の定義にいかなる影響を与えるか，どのような場合に主語と定義出来るか
3	datif（与格）特に択大与格の問題、lever les mains と se laver les mains の違いをどう説明するか，inalienable（譲歩不可能）の概念について
4	所有形容詞と＜Nom_1 à Nom_2＞の構文について
5	anaphore，文の統一性を保つ上での anaphore の役割、anaphore grammaticale と anophore lexicale, anaphore lexicale における限定詞の制約
6	temps / aspect この２つの概念は分かち難く結びついているので同時に取扱う。文法の見直し。いくつかの時制の成立過程の説明。
7	アスペクトの一般的な理論的説明，アスペクトと副詞との関係等
8	
9	
10	modalités, modalités とは何か。英語・仏語の例による modalité épistémique の説明，modalité appréciative について
11	
12	
備考	

科目名	フランス語学特殊講義 B-2 （旧）	担当者名	小石　悟

講義の目標		フランス語学特殊講義 B-1 を参照
講義概要		冠詞の使い方をいかに理論的に説明するかを重点的に勉強します。日本人には最も難しい問題の一つですが、これを克服しないことにはいつまでもフランス語は中途半端なままではないかと思います。どこまで迫れるかわかりませんが、A. Culioli の理論をこの問題に適応してみます。特に<Nom_1 de Nom_2>の構文の 2 つの名詞の前の冠詞がどうなるのかを研究します。
使用教材	テキスト	プリントあるいは適宜指示する
	参考文献	
評価方法		講義になるので出席重視。学期末にレポートを提出する。
受講者に対する要望など		この講義は後期のみです。登録時の手続きを間違わないようにしてください。内容的には B-1 と直接的な関係はないので、B-1 を受講していなくても構いません。

後期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	文法の見直し
2	
3	一般的なことを表わす名詞の前の冠詞
4	部分冠詞というカテゴリーは必要か
5	référence/référent
6	discret/dense/compact
7	全体的な理論的枠組
8	prédicat nominalisé
9	quantifieur
10	
11	qualifieur
12	
備考	

科目名	フランス文学各論　1（旧）	担当者名	井村順一

講義の目標		フランスの代表的な喜劇作家モリエールの生涯と作品を検討する。
講義概要		モリエールの生きたフランス17世紀の状況を演劇の面からとらえたうえで、この作家の活動および作品の特徴を分析する。フランス語テキストの抜粋と翻訳を中心におき、随時ヴィデオ映画『モリエール』（A・ムヌーシュキン監督）を用いる予定。
使用教材	テキスト	プリントを用いる。
	参考文献	講義の内容に応じてそのつど指示する。
評価方法		各自の見解を問う論述式の筆記試験を行い（前後期2回行うか後期末のみにするかは受講者の数を見てから決定する）、これに授業への参加度を加味して評価する。
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	＜時代の概観＞　時代背景。モリエールの演劇活動概観。
2	
3	
4	
5	＜初期作品＞『才女気どり』、『女房学校』。
6	
7	
8	
9	＜社会との抗争（1)＞『タルチェフ』、『ドン・ジュアン』
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	＜社会との抗争（2)＞『人間ぎらい』
2	
3	
4	
5	＜コメディー・バレーと笑劇＞『町人貴族』、『スカパンの悪だくみ』。
6	
7	
8	
9	＜結び＞『病は気から』とモリエールの死。モリエールの残したもの。 （受講者の理解度に応じ以上の進度・内容を若干変更することもある。）
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス文学各論 2 (旧)	担当者名	根本祐徳

講義の目標		「1827年から1923年までの小説」 約100年間に書かれた多くの作品に接して、小説の変貌を見てゆきます。それとともに、その中に描かれている人物を通して、大革命後の市民社会が成立していく様子を読んでゆきます。
講義概要		1827年といえば、その序文がいわばロマン主義の宣言書となったHugoのCromwelle「クロムウエル」が世に出た年であり、1923年はProustのA la recherche du temps perduの第4巻La Prisonnière「囚われの女」が出版された年にあたる。その間にBalzac, Stendhal, Flaubert, Zolaなど多くの作家たちがすぐれた作品を残している。それらの作品を読みながら、小説の変貌を辿り、市民社会の成立がどのように描かれているかを見てゆきます。 作家・作品を紹介し、その社会的背景に触れ、小説の一部を読んでいきます。
使用教材	テキスト	プリント配布
	参考文献	
評価方法		評価は前後期各1回のレポートを授業への参加度によって決定する。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文学特殊講義 1（旧）	担当者名	川 俣 晃 自

講義の目標		——ミュッセの生涯と作品—— フランス演劇の精華としてモリエール、ラシーヌと並び稱されるミュッセの作品と生涯を概観する。
講義概要		ミュッセの劇作についての考察を主とするが、小説、詩作、評論にも及ぶようにする。
使用教材	テキスト	必要に応じてコピーして配布する。
	参考文献	Musset, *Œuvres complètes*, Intégrale, Seuil.
評価方法		前期、後期の終わりに、それぞれ試験を行う。
受講者に対する要望など		

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	序論としてミュッセ Alfred de Musset (1810—1857) が生きた時代について略説する。
2	おなじくミュッセが書いた作品について略説する。
3	ミュッセの生い立ちについて述べる。
4	パリ市中におけるミュッセの足跡について述べる。
5	ミュッセの少年時代について述べる。
6	浪漫派セナークル (Cénacle) 時代のミュッセについて述べる。
7	若きミュッセの訳業『イギリスの阿片吸引者』《L'Anglais mangeur d'opium》(1828) について述べる。
8	最初の創作集『スペインとイタリアの物語』《Contes d'Espagne et d'Italie》(1829) について述べる。
9	最初の戯曲『ヴェネツィアの夜』《La nuit vénétienne》(1830) について述べる。
10	ミュッセに深い影響を及ぼしたジョルジュ・サンド George Sand との恋愛関係について述べる。
11	ジョルジュ・サンドと同行したイタリアの旅について述べる。
12	二人の当時の書簡を原文で読む。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	戯曲『マリアンヌの気紛れ』《Les caprices de Marianne》(1833) について述べる。
2	『マリアンヌの気紛れ』のテキストを読む。
3	戯曲『ファンタジオ』《Fantasio》(1834) について述べる。
4	『ファンタジオ』のテキストを読む。
5	ジョルジュ・サンドが関与した長篇戯曲『ロレンザツチヨ』《Lorenzdccio》(1834) について述べる。
6	『ロレンザツチヨ』の意義について考える。
7	『ロレンザツチヨ』のテキストを読む。
8	つづけて『ロレンザツチヨ』のテキストを読む。
9	戯曲『戯れに恋はすまじ』《On ne badine pas avec l'amour》(1834) について述べる。
10	『戯れに恋はすまじ』のテキストを読む。
11	戯曲『できごころ』《Un Caprice》(1837) について述べる。
12	『できごころ』のテキストを読んで、改めてミュッセの作品の意義について考える。
備考	

科目名	フランス文学特殊講義 2（旧）	担当者名	若森榮樹

講義の目標		フランスの19世紀、20世紀の詩の歴史を概観します。 19世紀のロマン派の詩から象徴派の詩へ、そして20世紀初めのシュールレアリスムから現代詩人へと、詩のたどった足跡を追っていきたいと思います。ヨーロッパの詩がどのようなものなのかを知るのがこの講義の目的です。
講義概要		代表的な詩人たちの著名な作品をとりあげ、読んでいきます。詩人の伝記、社会的背景などを知ることは、作品の理解にとって不可欠なので、その都度調べていきたいと思います。 なお19世紀までの詩では、韻文がほとんどで、フランス語の詩法を知ることも大切です。したがって、それについても述べます。
使用教材	テキスト	未定。『フランス詞花集』 で、比較的短く、読みやすいものを使う予定です。
	参考文献	授業の際、指示する。
評価方法		前期、後期の二度のレポートによって評価する。授業への積極的参加も評価の対象とします。
受講者に対する要望など		講義といっても、学生諸君にも詩を読んでもらいます。積極的参加を希望します。

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	フランス詩法について解説する。シラブルの数え方、詩の形式、比喩のもちい方など。
2	同上。
3	ロマン派の詩について述べる。ヴィクトル・ユーゴー、アルフレット・ド・ミュッセ、ラマルチーヌなどの有名な詩を読む。
4	同上。
5	同上。
6	同上。
7	高踏派を経て、象徴派の詩に至る過程を概観する。
8	ボードレールと、彼の詩の歴史的背景を研究する。
9	ボードレールの詩を読む。
10	同上。
11	ボードレール以降の詩人、とくにランボー、ヴェルレーヌ、マラルメについて述べる。また、彼らの詩を読む。
12	同上
備考	

後期

週	主要テーマ
1	ランボー、マラルメの詩について述べる。
2	同上。
3	ヴェルレーヌより後期象徴派への流れを概観する。 (ヴァレリー、クローデル等)
4	20世紀初期の詩、とくにアポリネールなどについて述べる。
5	シュールレアリスムの歴史を概観する。
6	シュールレアリスムの作品を読む(ブルトン、エリュアール、シャールなど)。
7	同上。
8	同上。
9	第二次大戦後の現代詩を読む(ジャック・デュパン、アンドレ・デュ・ブーシュ、イーヴ・ボンヌフォワ等)
10	同上。
11	同上。
12	同上。
備考	

科目名	フランスの地誌 (旧)	担当者名	鈴木　隆

講義の目標	人間の諸活動が営まれる場としての地域の状況を、フランスの全国土について一通り理解することを目指す。地域の中心としての都市に焦点をあてて地域の構造を捉えてゆく。	
講義概要	地域の概念をめぐる一般的議論について説明する。その後、便宜上、行政区域としての地域を目安として、各地域の状況を順に見てゆく。講義に際しては、資料をコピーして配布し、それを参照しながら説明を行う。また、視覚的に地域の状況を知るため、ビデオを見る機会も多少もうける予定である。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	講義の中で必要に応じて紹介する。
評価方法	主として試験およびレポートによって評価し、出席状況もある程度考慮する。	
受講者に対する要望など		

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	地域の概念と実体についての総論的説明を行う。
2	地域の構造と都市の関係に関する理論について説明する。
3	地域と都市の関係に関する理論のフランスへの適用の事例を紹介する。
4	パリ盆地とイル・ド・フランス地域の構造について説明する。
5	シャンパーニュ・アルデンヌ地域の構造について説明する。
6	ピカルディ地域の構造について説明する。
7	オート・ノルマンディ地域の構造について説明する。
8	サントル地域の構造について説明する。
9	フランス西部とバス・ノルマンディ地域の構造について説明する。
10	ブルターニュ地域の構造について説明する。
11	ペイ・ド・ラ・ロワール地域の構造について説明する。
12	ポワトゥ・シャラント地域の構造について説明する。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	南西フランスとアキテーヌ地域の構造について説明する。
2	ミディ・ピレネ地域の構造について説明する。
3	フランスの都市の起源と都市網の形成について説明する。
4	南フランスとラングドック・ルシィヨン地域の構造について説明する。
5	プロヴァンズ・アルプ・コートダジュール地域の構造について説明する。
6	南東フランスとローヌ・アルプ地域の構造について説明する。
7	ブルゴーニュ地域の構造について説明する。
8	オーヴェルニュー地域およびリムザン地域の構造について説明する。
9	ロレーヌ地域の構造について説明する。
10	アルザス地域およびフランシュ・コンテ地域の構造について説明する。
11	ノール地域の構造について説明する。
12	総括。
備考	

科目名	フランスの歴史 （旧）	担当者名	藤田朋久

講義の目標		＊フランス史の基礎知識を習得する。
講義概要		フランス史の概説。前期は古代から13世紀まで。後期は14・15世紀から19世紀まで。時代ごとの概観を行った上で、いくつか個別的なテーマを取り上げる。特定の教科書は用いないが、下記の参考書をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
使用教材	テキスト	プリント配布。
	参考文献	・井上幸治編『フランス史』山川出版社 ・河野健二著『フランス現代史』山川出版社 ・木村尚三郎、志垣嘉夫編『概説フランス史』有斐閣選書 （他の参考文献は、教室で指示する）
評価方法		前期レポート、後期試験、出席回数など。
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	ケルト時代、ガロ・ローマ期、初期中世、10・11世紀、12・13世紀。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	中世後期、アンシアン・レジーム、19世紀。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランスの音楽（旧）	担当者名	松橋麻利

講義の目標		今年度は、20世紀の音楽に焦点を当てる。20世紀は音楽の概念・様態・形態が大きく変化する時代である。こうした価値観の変遷を一世紀にわたって辿ることで、世紀末を迎えた今日の音楽状況を明らかにしていきたい。
講義概要		機能和声に立脚した音楽が崩壊したあと、新しい方向を模索したフランスのドビュッシー、メシアン、ブレーズら20世紀の作曲家にとって東洋の音楽や思想は、重要な示唆となった。東洋の影響は、音響や音素材などの技術的な側面だけにとどまらず、とくにケージに顕著に見られるように、根本的な音楽思考にまで及んだ。ここにいたって西洋音楽を絶対とする神話は崩れ去り、西洋と東洋がかつてないほど高次のレヴェルで深く融合することとなった。そしてこの融合から東洋自身も、自己を見直し、新たに世界に通用する音楽創造の可能性を再発見していくのである。代表的な作曲家を取り上げながら、この融合の過程を見ていく。
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	・ポール・グリフィス『現代音楽小史』（石田一志訳）音楽之友社 1984 ・ポール・グリフィス『現代音楽』（石田一志・佐藤みどり訳）音楽之友社 1987 ・『クラッシク音楽の20世紀』第1、2巻（『作曲の20世紀』（1）、（2））音楽之友社 1992、1993
評価方法		評価は、前・後期末各1回の試験と出席による。試験にはあらかじめテーマを決めた論文形式の課題が含まれる。
受講者に対する要望など		講義は、できるだけ音楽を聴きながら進めるが、受講者もふだんから多くの音楽を聴くように心がけること。

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	ドビュッシー1：ピアノ曲《版画》を中心に、東洋からの影響をうけた新しい音楽の在り方をみる。
2	ドビュッシー2：管弦楽曲《海》を中心にその語法の発展と可能性を探る。
3	フランス六人組1：反ドビュッシスムとは何であったかを、六人組が精神的な師とあおいだサティと彼らの作品を通して検証する。
4	フランス六人組2：同　上
5	フランス六人組3：同　上
6	フランス国外における新しい試み1：新ウィーン楽派の12音技法1 シューンベルク
7	〃　2：同　上　2 ベルク、ヴェーベルン
8	〃　3：ストラヴィンスキー
9	〃　4：バルトーク
10	〃　5：ガーシュイン
11	〃　6：ファリャ、ヴィラ＝ロボス
12	試験
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	メシアン1
2	メシアン2
3	ケージ
4	ブレーズ1
5	ブレーズ2
6	日本人作曲家1：山田耕筰
7	〃　2：未定
8	〃　3：未定
9	〃　4：武満徹1
10	〃　5：武満徹2
11	イサン・ユン
12	試験
備考	

科目名	フランスの演劇（旧）	担当者名	江花輝昭

講義の目標		プロスペル・メリメ（1803—1870）原作の小説を元にして作られた、フランスで最も有名で、かつ最高傑作の一つと言えるジョルジュ・ビゼー作曲のオペラ『カルメン』を鑑賞します。初演時のオペラ・コミック版に基く秀れた映画版が存在しますので、そのヴィデオを中心に筋を追いながら、台本を細かく検討し、そこから抽出される様々な問題を考察します。また原作小説との比較も行います。音楽的分析ではなくて、あくまで演劇的な観点からの考察が主となります。
講義概要		はじめにビゼー及びメリメについての解説、時代背景等に関する概括的説明を行った後に、メイヤック＝アレヴィー作の台本を順に追って分析していきます。最後に授業を通じて浮かびあがってきた幾つかの問題についてまとめの講義を行います。
使用教材	テキスト	メリメ『カルメン』（岩波文庫）。その他開講時に指示。
	参考文献	
評価方法		レポート。年度末に１回提出。
受講者に対する要望など		テキストは翻訳及び対訳版を使う予定ですが、台詞はフランス語ですし（字幕あり）、台本の分析の際には細かなフランス語テキストの部分が問題になりますので、フランス語の知識が必要となります。

科目名	フランスの政治（旧）	担当者名	井上スズ

講義の目標		現代フランスの政治の仕組みを理解させ、またフランスの政治の基底にあるフランス人の思考行動様式への関心を喚起することを目標としている。
講義概要		前期講義では、まずフランスの政治の仕組みを、主として憲法をはじめとする諸規則との関連で解説する。次に第五共和制の各種選挙結果から、政党勢力の変遷をみ、更に近年わが国でも大きな問題となっている政治腐敗について言及する。なお本年は、大統領選挙が予定されているので、この点で興味深い問題があれば、適宜取りあげる。 後期講義では、1981年以降のミッテラン外交を時代順に述べる。
使用教材	テキスト	使用せず。
	参考文献	・奥島孝康・中村紘一編『フランスの政治』早稲田大学出版部 ・J・ヘイワード『フランス政治百科』上・下　勁草書房
評価方法		前期・後期、それぞれ課題を示して、レポートを提出させる。
受講者に対する要望など		レポートは、正しく課題に対応していることが大切。参考文献を明示していること、また文章表現力も重視する。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	第五共和政の成立と制度の特色
2	同上
3	大統領・政府・行政システム
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	議会　選挙制度と投票行動
9	議会　政党と選挙
10	同上
11	政治資金と汚職
12	政治と司法
備考	

後期

週	主要テーマ
1	社会党政権の成立と外交の基本姿勢
2	第三世界外交の展開
3	同上
4	対アフリカ仏語圏外交
5	レバノン介入と対中東外交
6	チャド介入
7	ユーロ・ミサイル危機
8	第一次社会政権下のミッテラン外交
9	コアビタシオン期外交の諸問題
10	湾岸戦争Ⅰ
11	湾岸戦争Ⅱ
12	人道援助外交
備考	

科目名	フランスの経済 （旧）	担当者名	千代浦　昌　道

講義の目標		フランス経済の歴史と現状を学び、その知識を国内・国外の経済・社会問題についての正しい見方・考え方に役立てること。
講義概要		前期は、フランス経済の現状の概観を説明した上で、現在のフランス経済の歴史的背景を形成している、主に18世紀の産業革命以後のフランスの経済発展史について講義する。 後期は、特に第二次世界大戦以後のフランス経済の成長と変遷を、企業国有化と経済計画の流れに沿って説明する。
使用教材	テキスト	・Japan 1995 : *An International Comparison*, 1994、経済広報センター ・清水貞俊編『フランス経済を見る目』1984、有斐閣
	参考文献	・井上幸治編『フランス史（新版）』1974、山川出版社 ・原　輝史編『フランスの経済』1993、早稲田大学出版部
評価方法		前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。
受講者に対する要望など		新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	(1) 授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明 (2) 最近のフランスの政治経済情勢についての基礎知識
2	(1) 簡単な経済専門用語の基礎知識、(2) フランス経済の基礎データの説明 （テキスト「Japan 1995 : An International Comparison」を持参すること）
3	近代におけるフランス経済の発展：経済発展と工業化についての基礎知識
4	近代におけるフランス経済の発展：フランスの産業革命の特徴
5	近代におけるフランス経済の発展：産業革命前史１（旧体制下の経済と社会）
6	近代におけるフランス経済の発展：産業革命前史２（フランス大革命とナポレオンＩ世の時代）
7	近代におけるフランス経済の発展：農業と産業革命
8	近代におけるフランス経済の発展：工業化と人口問題
9	近代におけるフランス経済の発展：天然資源と工業化
10	近代におけるフランス経済の発展：国内産業の保護、植民地経営と工業化
11	近代におけるフランス経済の発展：金融制度の発展と工業化
12	近代におけるフランス経済の発展：工業化の社会的諸条件
備考	

後期

週	主要テーマ
1	戦後フランスの経済：戦後フランスの政治と経済の変遷（年表配布）
2	戦後フランスの経済：経済計画と第１次国有化
3	戦後フランスの経済：ドゥゴールとポンピドゥーの経済政策
4	戦後フランスの経済：ジスカールデスタンとパール・プラン
5	戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計１ （テキスト：Japan 1995 : An International Comparison）
6	戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計２ （テキスト：Japan 1995 : An International Comparison）
7	戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計３ （テキスト：Japan 1995 : An International Comparison）
8	戦後フランスの経済：ミッテランの経済政策１（第２次国有化と社会主義政策）
9	戦後フランスの経済：ミッテランの経済政策２（保革共存と民営化）
10	戦後フランスの経済：ミッテランの経済政策３（欧州共同体とフランス経済）
11	戦後フランスの経済：ミッテランの経済政策４（バラデュール内閣の経済政策）
12	戦後フランスの経済：まとめ（失業、インフレ、貿易、フランの地位など）
備考	

科目名	フランス文化特殊講義 1（旧）	担当者名	青木一郎

講義の目標		20世紀美術の出発点とも云えるダダ・シュルレアリスム芸術について勉強します。現代美術は解りにくいとよく云われます。その原因の1つはシュルレアリスムにあると云ってよいでしょう。そこで、ダダ・シュルレアリスムの美術をスライドなどを使って、なるべく解り易く解説して行きたいと思います。
講義概要		ダダ・シュルレアリスムについて、その歴史的背景、変遷、そしてその影響について解説します。美術に関する講義ですから、個個の作品についてスライドを使った解説を加えてゆきます。その他、ダダ・シュルレアリスム関係の展覧会や映写会などが行われる時には適時に指示して学生諸君に実物を見てもらうようにしたいと思います。前期はダダ運動について、後期はシュルレアリスムに関して解説したいと思います。
使用教材	テキスト	なし。講義の初めにその時間のプリントを配布します。
	参考文献	・ハンス・リヒター『「ダダ」—芸術と反芸術』 美術出版社 ・ケネス・クウツ・スミス『ダダ』 PARCO ・モーリス・ナドー『シュルレアリスムの歴史』 思潮社 ・カーディナル、ショート『シュルリアリスム』 PARCO
評価方法		評価は、前期後期とも定期試験期間中に行うテストによって決定する。
受講者に対する要望など		なるべく欠席しないこと。やむを得ず欠席した時は次の講義の時までにプリントを取りに来るように。

前期

年間講義予定

主要テーマ
前期はダダについて解説しますが、チューリッヒ、ニューヨーク、パリ、ベルリンなど、各地域のダダ運動の歴史的重要性が異りますので、各地域に関して、一回の講義という分けには行かないと思います。なるべく各講義ごとにまとめて行きたいと思いますが、二回三回に亙ることもあるかと思います。初回は勿論一年間の講義をどのように行うか、という話から始めますが、それに続いてダダの発生した歴史的背景の解説も行います。 二回目からは、チューリッヒ、ニューヨーク、ベルリン、ハノーヴァー、ケルン、パリなど各地のダダについて見て行きます。前期の終りには、ダダに関する綜合的評価、そしてその影響関係などについてもお話しします。

後期

主要テーマ
後期はシュルレアリスムに関して講義することになりますが、初回は、ダダ運動の行き詰りから、どのようにしてシュルレアリスム運動へ転換して行ったか、という話から始めましょう。 2回目以降は、シュルレアリスム運動に加わった芸術家達は、それぞれ非常に個性の強い人々でしたし、またこの運動がもっぱらパリを中心としていましたので、毎回一人づつの作家の話をする、という形をとりたいと思います。ただし、この場合も、きっちり一人づつ、とは行かないかも知れません。場合によっては二回に亙り、或は一回に二人の作家の話をする、ということもあるかも知れません。最終回には勿論、全体のまとめをすることになります。

科目名	フランス文化特殊講義 2 (旧)	担当者名	鈴木　隆

講義の目標		建築の歴史を通してフランスの文化を学ぶ。フランスにおいて、建築は重要な文化として位置づけられており、人々にとっても身近な存在である。それは、建築が単に建物をつくる行為にとどまらず造形的表現として認知されてきたこと、および、歴史的な建築が長い耐久性をもって現に人々の生活環境の一部として存続していることなどとも関連があると考えられる。そうした建築の歴史を具体的に知る。
講義概要		古代、中世、近世と歴史的な順序に従って、建築の造形および様式上の特徴を、その技術的背景などにも言及しながら説明してゆく。おおよそ、前期は、古代ギリシャおよびローマから中世のゴシックもしくはロマネスクあたりまでをとりあげ、後期は、ロマネスクもしくはルネサンスから以降をとりあげる予定である。フランス以外のヨーロッパの地域の建築にも触れることになる。必要に応じて資料を配布し、それに即して講義を行う。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	講義の中で必要に応じて紹介する。
評価方法		主として試験およびレポートによって評価し、出席状況もある程度考慮する。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文化特殊講義 3（旧）	担当者名	横地卓哉

講義の目標		―― パリ ――19世紀の首都 19世紀のパリに焦点をしぼり、都市と文化、生活のかかわりあいを考える。
講義概要		前期は、起源から現代に至るパリの歴史を概観したあと、特に19世紀におけるパリの変遷を追う。 後期は、特にドイツのユダヤ人哲学者ヴァルター・ベンヤミン（1892～1940）の目をとおして、19世紀のパリについての考察をすすめる。
使用教材	テキスト	
	参考文献	・Bernard Marchand, *Paris, histoire d'une ville,* Seuil, 1993 ・ヴァルター・ベンヤミン、『ボードレール』、岩波文庫、1994 ・　〃　『パサージュ論』全5巻、岩波書店、1994～ 他
評価方法		年2回のレポートおよび授業への参加度により決定する。
受講者に対する要望など		

科　目　名	英語Ⅲ－1（旧）	担当者名	大　島　かよ子

講義の目標		英米作家の短篇を読みます。短篇には余分なものを削ぎ落した表現の美しさがあります。簡潔な構成や文体によっていかに大きなもの、いかに深いものを表わしているかを探っていこうと思います。
講義概要		前期は出来うる限り多くの作品を読みます。後期は少々難解な作品へと進みます。方法は発表形式を取ります。理解度をみるため小テストを行います。従って出席は重視されます。
使用教材	テキスト	J. B. Singer *"Short Friday"*　旺史社　その他数冊の短篇集
	参考文献	
評価方法		評価は年２回のテスト、クラス時の小テスト、発表等で決まります。
受講者に対する要望など		作品を共に読もうとする学生を歓迎します。

科目名	英語Ⅲ－2（旧）	担当者名	児嶋一男

講義の目標		アメリカの現代小説を読みながらアメリカ文化について考えます。 アメリカの片田舎の中年男女の純愛物語が、なぜアメリカや日本でベストセラーになったのか。それを考えながら、1930年代から1990年代までのアメリカ人のものの考え方を探ってみようと思います。参考文献も読んだうえで、内容を考えて相互に意見交換したいと思います。
講義概要		適当な箇所を選んで読んでいきます。英語を読んで日本語になおす作業を続けます。丹念に辞書を引いて、予習段階できちんとノートを作り、完璧に近い状態に近づけて、出席して下さい。言葉の関わりを意識してまずは直訳し、次に自然な日本語を考えてみたいと思います。 毎時間 expressions の小テストを行ないます。
使用教材	テキスト	R. J. Waller, *The Bridges of Madison County* (Mandarin Paperbacks)
	参考文献	適時指定。
評価方法		小テストを40点に換算し、期末試験は60点満点とします。合計点で60点以上であれば単位を認定します。
受講者に対する要望など		年間授業数の1/3以上を欠席した場合は、試験の成績を問わず単位を認定しないつもりです。また、予習不十分な人は、授業の進行の妨げとなり、迷惑ですから、退場してもらいます。

科　目　名	英会話Ｉ－１（旧）	担当者名	P. Beland

講義の目標		
講義概要	講義では60％は日常会話のための勉強をします。あと40％では様々な話題を取りあげ、もうすこし専門的な会話の勉強をします。政治、経済、地理、宗教などを話題にして、基本的な語彙を身につけるようにします。生徒の皆さんに望むことは、どのような話題についても興味をもち、心を開いて勉強して欲しいと思います。	
使用教材	テキスト	;*LIVELY ENGLISH CONVERSATION,*　〈Beland Associates 発行〉
	参考文献	その他、私が用意する資料
評価方法		
受講者に対する要望など		

科　目　名	英会話Ⅰ－3（旧）	担当者名	K. Harris

講義の目標		The goal of this course is to improve the students' overall English ability through discussion.
講義概要		This course will be organized around several themes, such as: travel, cooking, relationships, dialects. There will be several homework assignments, skits and class discussions.
使用教材	テキスト	To be determined
	参考文献	
評価方法		Students will be graded on participation, homework attendence, and group work. More than five (5) absences will result in failure.
受講者に対する要望など		Students must participate in discussions.

科　目　名	英会話Ｉ－４（旧）	担当者名	J. M. Thurlow

講義の目標		To help students overcome feeling gauche and maladroit about speaking English. To keep them on the qui vive and add a certain je ne sais quoi to their English.
講義概要		We will use work in pairs and small groups to encourage the students to make the best use of the English they have already learned.
使用教材	テキスト	*All Talk 2*, by David PEATY;, Macmillan Language House
	参考文献	
評価方法		Grades will be awarded according to attendance, punctuality, effort in class and attainment. There will be an oral examination as well as continuous assessment.
受講者に対する要望など		

科　目　名	英会話Ⅰ－5（旧）	担当者名	L. Villeneuve

講義の目標	In order to sign up for an English course, no one is expected to be almost fluent in the Language or to possess great knowledge of its grammar. The course is concerned with reminding you that you CAN speak English to some extend. It will make you vealize that you have actually learned a lot of English and that you can give meaningful replies. You will realize that English is not impossible for you. It is easy, C'est facile. I will take you in my class just as you are. The only requirements are a good will and the desire to make progress. La nonchalance me dégoûte.
講義概要	The Method Our ninety minute lecture will be called WORKSHOP. During the first 45 minutes, you will study the story and memorize eight key sentences. Then, I will take you through some drills. The second 45 minutes should be spent in conversation in pairs or groups. Once every semester, a video will be shown. After its viewing, you will be asked to give a personal oral impression. Lots of fun ahead!! Join in ! Relax ! Improve !
使用教材 テキスト	material used in class will be made known at the second meeting
使用教材 参考文献	
評価方法	As it is an academic course, there are credits to be earned. Therefore, regular attendance is P MUST for the third year students. The fourth year students have to attend ten workshops in order to be qualified to recive their credits. Evryone will be evaluated according to one's attendance, active participation and the
受講者に対する要望など	final comprehension test. Welcome and have a great school year.

科目名	英会話Ⅱ（旧）	担当者名	D. R. Kogge

講義の目標		In this course, students will develop competence and confidence in speaking and understanding English. This will be accomplished through small-group, student-centered discussions based on assigned readings and topics.
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	Printed materials
評価方法		Students will be evaluated on the bases of class participation, attendance, and written/oral assignments.
受講者に対する要望など		